

高知女子大学

Kochi Women's University

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第12号

2010年

(2009年度自己点検評価資料)

高知女子大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市 池 2751-1

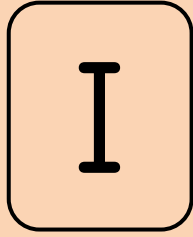
TEL 088-847-8700 (代表)

FAX 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.kochi-wu.ac.jp/>

目 次

I.	2009年度を振り返る	
1.	2009年度社会福祉学部の概括	1
2.	2009年度社会福祉学部の主要行事	4
3.	2009年度社会福祉学部時間割	5
II.	社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）	
1.	杉原 俊二	7
2.	住友 雄資	10
3.	田中 きよむ	13
4.	林 美朗	17
5.	前山 智	18
6.	宮上 多加子	20
7.	後藤 由美子	23
8.	長澤 紀美子	25
9.	西内 章	27
10.	上白木 悦子	29
11.	鈴木 孝典	31
12.	西梅 幸治	34
13.	新藤 こずえ	37
III.	社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）	
1.	教務委員会	39
2.	入試委員会	40
3.	学生委員会	42
4.	就職委員会	44
5.	広報委員会	46
6.	地域創成センター	48
7.	実習委員会	68
8.	総務・予算委員会	70
IV.	学生を中心とした活動	
1.	国家試験に向けての取り組み	71
2.	グローカルクラブ	73
3.	太鼓部	74
4.	池手話サークル	75
5.	いけとべ！	76
6.	ハモ☆イケ！！	77
7.	援農隊	78
V.	卒業論文題目一覧（2009年度）	79



2009年を振り返る

2009年度社会福祉学部活動の概括

学部長 前山 智

1. 教員体制

2009年度の社会福祉学部教員数は前年度よりも1名増加して13名となり、教員構成としては、教授6名、准教授3名、講師3名、助教1名となる。2010年度からの学部拡充準備のために教員2名の前倒し採用が認められたが、2008年度末退職者3名の内1名の後任補充が時間的に難しかったので、実質的には1名増に留まった。

2. 学部拡充と学部棟の改修工事

2010年度からの学部拡充に向けて、入学定員増とそれに伴う教員増に対応するため、学部棟内を2月～3月に改修して、講義室の拡張や教員研究室・ゼミ室の増設を行った。また、介護福祉士養成課程を設置するために、新たに建設された介護福祉棟内に介護関係実習室を整備し、厚生労働省に介護福祉士養成施設の指定申請を行い、3月に実地調査を受けて認可された。2010年度に採用する介護福祉担当教員2名についても採用活動を行い内定した。

3. 教育

2009年度に入学した12期生から、社会福祉士養成新カリキュラムに準拠して策定された新しい専門教育カリキュラムが始まった。現場実習に関しては、8月から10月にかけて3回生が社会福祉現場実習を、4回生が精神保健福祉援助実習を行い、1月に学生による現場実習報告会、3月に実習先の担当者を招いて実習連絡協議会を開催した。卒業論文に関しては、5月に卒論構想発表会、10月にポスター形式による卒論中間報告会を経て、12月18日締切りで提出され、卒論発表会を2月に開催した。

4. 研究

研究成果としては、著書2編、論文15編、学会発表22件であり、前年度よりは増加した。科研費応募件数は9件で前年度よりも増加した。学長裁量プロジェクトとして、「国際ソーシャルワーク教育の開発について」と「高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育研修モデル開発について」の調査研究を継続して進めた。

5. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第11号(2008年度版)を作成し、冊子化するとともに学部ホームページにおいて公表した。9月に愛媛大学で開催された四国地区大学教職員能力開発ネットワークのフォーラムに参加した教員による学部FD報告会を開き、また11月に岩手県立大学の介護福祉担当教員を講師として招き「社会福祉学部の介護福祉士養成課程導入に伴う体制整備と地域連携」をテーマとした学部FD研修会を行った。その他、学外の「2009年度全国社会福祉教育セミナー」や「2009年度社会福祉士養成校協会中四国ブロック教員研修会」に参加し研修を行った。

6. 入学生と2010年度入学試験

4月に第12期生となる30名(県内出身13名)、3年次編入生2名が入学した。2010年度から入学定員を70名に増やすため、2010年度の各入学試験の募集人員は増やしたが、専門推薦入試と3年次編入学試験については廃止した。県内外で開催された進学相談会に参加するとともに、入学定員増をPRするために、高校へ学部拡充のチラシの配布や在校生の出身高校への訪問などを行い、志願者確保に努めた。その結果、推薦入試(募集9→20名)と前期入試(募集17→45名)の志願者は増加したけれども、それらの増加率は募集人員の増加率に比べ低かったため、志願倍率は1.3倍と3.4倍に低下した。後期入試(募集3→5名)の志願者は前年度と同数で、志願倍率は募集人員の増加により21.4倍に低下した。前期入試と後期入試を合わせた志願倍率は、前年度の11.1倍から募集人員増により5.2倍に低下し、15の県立大学社会福祉学系学科の平均志願倍率5.0倍とほぼ等しくなった。

7. 卒業生と就職

2010年3月に第9期生33名が卒業した。3月末までに、就職を希望した卒業生31名全員の就職が決まった。第9期生の就職先では、高知県や高知市への採用を始めとして公務員(准公務員や臨時も含め)の割合が29%と前年度に引き続き高かった。福祉施設等への就職が減少し、一般企業への就職が増加した結果、福祉分野への就職の割合が約65%となり前年度に比べ低下した。また県内への就職の割合は約60%であった。就職や就活に対する意識を高めるために、卒業生を講師とした学部就職セミナーを5月に開催した。

8. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験

第9期生が1月初旬に恒例となっている国試直前強化合宿に行き、1月30-31日に実施された第22回社会福祉士国家試験と第12回精神保健福祉士国家試験を受験した。前者の合格率は73.3%で、前年度より約5%低下したにも拘わらず、順位としては2位アップして200校中12位であった。後者の合格率は88.2%であり、4年振りに90%に届かず、111校中25位であった。今回の社会福祉士国家試験は社会福祉士養成新カリキュラムに基づく初めての国家試験であったため、旧カリキュラムで学んできた第9期生にとっては厳しい試験となったが、健闘したと言える。

9. 地域貢献活動

「2009年度社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座と特別講演2回を10月から2月に掛けて開催し、延べで約400名程度の福祉関係者等の参加があった。8月3日に「第9回高校生のための公開講座」を開催し、県外からの2名を含め34名の高校生が受講した。2月に、健康長寿センター開設プレ企画として公開講座「新時代を拓く介護福祉教育」を開催した。また、高知県社会福祉士会に協力して、池キャンパスで社会福祉士実習指導者講習会を開催した。

10. 広報活動

「2009年度 社会福祉実習報告書」は発行したが、社会福祉学部紹介パンフレット「こんにちは社会福祉学部です。」は内容等を再検討するため2009年度版の発行は中止した。2010年度からの社会福祉学部拡充について広報するために、「社会福祉学部は変わります」のチラシ第2版を作成して中四国を中心とした高校に配布するとともに、冬休み期間中に県外出身の1~3年生20名に出身高校を訪問させた。また、学部ホームページによる迅速な学部行事や入試情報等の発信に努めた。

11. 学生の活動

学内では、7月に2～4回生が企画した「新入生歓迎学年間交流会」、2月に3回生が企画した「4回生を送る会」が卒論発表会の終了後に開催された。

学外では、5月に開催された「第11回高知県障害者スポーツ大会」に学生がボランティアとして大会運営に協力した。

2009年度を振り返る

2009年度社会福祉学部の主要行事

4月	1日	(水)	辞令交付式(杉原教授、林教授、後藤准教授、上白木講師)
	6日	(月)	入学式(12期生30名+編入2名入学)
	7~9日	(火~木)	学生ガイダンス
	10日	(金)	前期授業開始(~7月30日)
	21日	(火)	創立記念日/新入生バスハイク(ヤ・シィパーク、のいち動物公園)
	27日	(月)	第1回教授会
5月	20日	(水)	卒論構想発表会No.1/国試ガイダンス
	27日	(水)	卒論構想発表会No.2/第1回社会福祉学部就職セミナー
	25日	(月)	第2回教授会
6月	22日	(月)	卒業生による講演会「ハンセン病とハンセン病療養所における医療ソーシャルワークについて」
	22日	(月)	第3回教授会
7月	11日	(土)	学年間交流会
	27日	(月)	第4回教授会
8月	1日	(土)	オープンキャンパス/社会福祉・精神保健福祉現場実習(~10月31日)
	3日	(月)	第10回高校生のための公開講座
	24日	(月)	第5回教授会
9月	28日	(月)	第6回教授会/学部FD報告会
10月	1日	(木)	後期授業開始(~2月19日)
	3日	(土)	2009年度リカレント教育講座開講(~2月6日/4講座+2特別講演)
	21日	(水)	卒論中間発表会
	26日	(月)	第7回教授会
11月	14日	(土)	推薦入学試験(26名受験)
	21日	(土)	リカレント教育講座特別講演「末期医療における治療行為の中止の問題を考える」
	22日	(日)	学部FD研修会「介護福祉士養成課程導入に伴う体制整備と地域連携」
	30日	(月)	第8回教授会
12月	18日	(金)	第9回教授会 / 卒論提出締切 / 国家試験受験激励会
1月	6~8日	(水~金)	国家試験直前強化合宿(4回生企画、香北青少年の家)
	25日	(月)	第10回教授会
	28日	(木)	実習報告会
	30~31日	(土~日)	「第22回社会福祉士国家試験・第12回精神保健福祉士国家試験」(30・17名受験)
2月	6日	(土)	リカレント教育講座特別講演「発達障害の理解と支援」
	20日	(土)	健康長寿センタープレ企画公開講座「新時代を拓く介護福祉教育」
	22日	(月)	第11回教授会
	23日	(火)	卒論発表会 / 4回生を送る会(3回生企画)
	25~26日	(木~金)	前期日程入学試験(136名受験)
3月	9日	(水)	実習連絡協議会
	12日	(金)	後期日程入学試験(57名受験)
	19日	(金)	卒業式(33名卒業)
	23日	(火)	第12回教授会

2009年度を振り返る

平成21年度 社会福祉学部 前期 時間割 (2009年4月3日現在)

H21年度	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
	科目コード	8:40~10:10 教室	科目コード	10:20~11:50 教室	科目コード	12:35~14:05 教室	科目コード	14:15~15:45 教室	科目コード	15:55~17:25 教室
月	1	E4031 英語コミュニケーション I 掲示			T5150 社会理論と社会システム(玉里) 101					
	2	英語コミュニケーション I 掲示	E4041 英語コミュニケーション II 掲示	T5310 社会福祉特論(新藤) 102						
	3	英語コミュニケーション I 掲示	T5203 社会福祉援助技術各論Ⅱ-a(西梅)	101	T5409 社会福祉外書講読Ⅰ(長澤) 202					
	4									
火	1	T5146 社会保障(田中) 101	T5141 現代社会と福祉(長澤) 101	T5139 福祉対象入門(住友) 101	E2002 情報処理概論(宮本) 大講也	E1011 女性学入門(長妻) 体中講				
	2	T5201 社会福祉援助技術各論Ⅰ-a(西梅) 102	T5118 障害者福祉論Ⅰ(新藤) 102	T5217 介護演習Ⅱ(宮上) 102	T5501 社会福祉現場実習Ⅰ(西内・西梅・新藤) 福祉実習室	T5413 福祉研究法Ⅰ(住友) 102				
	3		T5306 医療福祉論(上白木) 202	T5134 社会福祉行財政論(田中) 202						
	4	T5716 精神科リハビリテーション学(武田) (3回生後期~) 202*	観察室							
水	1	E4009 中国語初級Ⅰ(高西) 109	E1104 音楽療法入門(住友弘) 大講	E1201 日本国憲法(岩倉) 大講	E1102 心の科学(八木(文)) 大講	E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(清原) 体育館				
		E5001 教養セミナー(後藤・福祉) 202	E4011 中国語中級Ⅰ(高西) 202			E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(清原) 体育館	E1302 生活と統計学(谷本) 102			
		E1004 土佐の健康と福祉(オムニバス) 202				E5001 教養セミナー(松本由香・生才)[永] 永	E1307 生活デザインの世界(オムニバス)[永] 永			
		E5001 教養セミナー(島田・栄養)[永] 永	E1102 心の科学(八木(文))[永] 永			E5001 教養セミナー(名和・理科) 202				
2	T5117 児童福祉論(杉原) 101	T5133 社会福祉史(吉野) 101	T5107 社会福祉援助技術総論Ⅱ(西内) 101							
3	T5222 医療ソーシャルワーク論(上白木) 303		T5207 社会福祉援助技術演習Ⅲ(住友) 観察室	T5416 福祉研究演習Ⅰ(担当教員)						
4	T5124 国際福祉論Ⅱ(長澤) 102	T5155 更生保護制度(宮本) 102	T5152 権利擁護と成年後見制度(上社) 102				T5407 社会福祉専門演習Ⅱ-a(担当教員)			
木	1	英語コミュニケーションⅠ[永] 掲示	E4017 ドイツ語初級Ⅰ(持尾)[永] 永	E1103 哲学入門(原嶋)[永] 永	E1201 日本国憲法(岩倉)[永] 永	E1107 絵画を読む(東洋)(松本)[永] 永				
		E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(清原)[永] 永	E4013 フランス語初級Ⅰ(安藤)[永] 永	E1302 生活と統計学(谷本)[永] 永	E1207 福祉の世界(オムニバス)[永] 永	E1303 物理の考え方(原)[永] 永				
		E4019 ドイツ語中級Ⅰ(斎藤)[永] 永	E1003 土佐の自然と暮らし(オムニバス)[永] 永	E1212 現代社会論(田中)[永] 永		E1105 器楽音楽Ⅰ(住友弘)[永] 永				
		E4015 フランス語中級Ⅰ(安藤)[永] 永	E1306 地球の科学(安田)[永] 永			E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(清原)[永] 永				
2	英語コミュニケーションⅠ 掲示	E4051 英語コミュニケーションⅢ 掲示								
3	T5111 社会福祉法制論(田中) 101	T5999 精神保健福祉援助実習(鈴木・新藤・住友) 観察室	T5135 ケアマネジメント論(上白木) 101	T5502 社会福祉現場実習Ⅱ(西内・西梅・新藤) 福祉実習室	T5503 社会福祉現場実習Ⅲ(西内・西梅・新藤) 福祉実習室					
4		T5504 精神保健福祉援助実習(鈴木・新藤・住友) 観察室								
金	1	T5149 心理学理論と心理的支援(山崎) 大講		T5411 社会福祉入門演習(後藤) 102	E2003 コンピュータリテラシー(前山) 情演	E2003 コンピュータリテラシー(前山) 情演				
	2	T5205 社会福祉援助技術演習Ⅰ(西梅) 観察室	T5302 公的扶助論Ⅱ(田中) 101	T5105 社会福祉概論Ⅱ(長澤) 101	T5119 高齢者福祉論Ⅰ(西内) 101					
	3	T5125 女性福祉論(長澤) 102	T5715 精神医学(林)*1 102	T5705 母子保健論(宮上) 202	T5712 精神保健学(林) 102					
	4									
集中講義		科目コード	科目名・教員名等	開講月日	科目コード	科目名・教員名等	開講月日			
		E3001	心とからだの科学(本間・川崎) 永	掲示する(平成21年9月予定)						
		E1308	食の科学[池](八木(年)) 掲示	掲示する(平成21年9月予定)						
前期		T5418	地域福祉活動Ⅰ(宮上・田中・杉原) 掲示	掲示する						
		T5154	就労支援サービス(野中) 掲示	掲示する						

注()内の人名は担当教員。下線を付した者は非常勤講師。

[備考]*2 後期火曜4時限目の講義と合せて受講すること

*3 受講登録は、前期集中で登録すること

永:開講

池:開講

教科教育法は学科で対応

※教室名で「情演」と表記しているのは、「情報処理演習室」です。「大講」と表記しているのは、「大講義室」です。「体中講」と表記しているのは、「体育館中講義室」です。

※科目コード欄が「-」になっている科目は、受講登録不要です。(受講登録してはいけません。)

2009年度を振り返る

平成21年度 社会福祉学部 後期 時間割 (2009年4月3日現在)

学年	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限							
	科目コード	8:40~10:10	教室	科目コード	10:20~11:50	教室	科目コード	12:35~14:05	教室	科目コード	14:15~15:45	教室	科目コード	15:55~17:25	教室	
1月	1	英語コミュニケーションⅠ	揭示	E4041	英語コミュニケーションⅡ	揭示				T5505	社会福祉ふれあい実習(西内・西橋・新藤)	※※※※				
	2	英語コミュニケーションⅠ	揭示	E4041	英語コミュニケーションⅡ	揭示				T5506	精神保健福祉ふれあい実習(鈴木・新藤)	観察室				
	3	E4012	中国語初級Ⅱ(高西)	看109	T5127	社会福祉行政論Ⅱ(田中)	102	T5307	精神保健福祉論(鈴木)	102						
	4															
2月	1	—	社会保障(田中)	101	—	現代社会と福祉(長澤)	101									
	2	T5304	障害者福祉論Ⅱ(新藤)	102	T5218	子育て社会支援論(杉原)	102		—	社会福祉現場実習Ⅰ(西内・西橋・新藤)	※※※※	T5414	福祉研究法Ⅱ(新藤)	101		
	3	T5716	精神リハビリテーション学(益田)*1 (~4回生前期)	※※※※	T5204	社会福祉援助技術各論Ⅱ-b(玉里)	202	T5208	社会福祉援助技術演習Ⅳ(玉里)	102	—	精神医学(林)	102	T5128	社会福祉施設経営管理論(吉永)	102
	4															
3月	1	T5142	相談援助の基礎と専門職(西橋)	202	E2001	情報と社会(前山)	202	E5001	教養セミナー(松本茂・文化)[永]	永	E3005	健康スポーツ科学Ⅱ(宮本)	体育館	E3005	健康スポーツ科学Ⅱ(宮本)	体育館
	2	T5114	地域福祉論(田中)	102	T5136	面接技法(杉原)	観察室	T5303	児童福祉論Ⅱ(杉原)	102				E1013	女性の生活と健康(オムニバス)	看109
	3	T5210	精神保健福祉援助演習 (住友芳・住友雄・鈴木)①	101	—	精神保健福祉援助演習 (住友芳・住友雄・鈴木)②	101	T5209	精神保健福祉援助技術各論(住友)	202	T5417	福祉研究演習Ⅱ(担当教員)				
	4													T5408	社会福祉専門演習Ⅱ-b(担当教員)	
4月	1	—	英語コミュニケーションⅠ[永]	永	E4051	英語コミュニケーションⅢ[永]	永	E1101	倫理学(原嶋)[永]	永	E1001	土佐の歴史と文化(オムニバス)[永]	永	E1012	女性とキャリア(鈴木哲)[永]	永
	2	E1309	生活の中の化学(蒲生)[永]	永	E4018	ドイツ語初級Ⅱ(持尾)[永]	永	E1211	ユニバーサルデザイン基礎論(松本由)[永]	永	E1104	音楽療法入門(住友弘)[永]	永	E1106	器楽音楽Ⅱ(住友弘)[永]	永
	3	E4020	ドイツ語中級Ⅱ(斎藤)[永]	永	E1002	土佐の経済とまちづくり(塩田)[永]	永	E1109	文学の世界(佐藤・青木)[永]	永	E1108	日本語の表現技術(池)[永]	永			
	4	E4016	フランス語中級Ⅱ(安藤)[永]	永	E4014	フランス語初級Ⅱ(安藤)[永]	永	E1301	数の世界(谷本)[永]	永	E1206	国際社会と日本(保坂)[永]	永	E1214	地域起こし論(佐藤厚)[永]	永
5月	1	—	英語コミュニケーションⅠ	揭示	E4051	英語コミュニケーションⅢ	揭示									
	2															
	3	T5410	社会福祉外書講読Ⅱ(長澤)	102	—	精神保健福祉援助実習(鈴木・新藤・住友)	観察室	T5219	ケアマネジメント演習(上白木)	102	—	社会福祉現場実習Ⅱ(西内・西橋・新藤)	※※※※	—	社会福祉現場実習Ⅲ(西内・西橋・新藤)	※※※※
	4				—	精神保健福祉援助実習(鈴木・新藤・住友)	観察室									
6月	1				—	相談援助の基礎と専門職(西内)	202	T5412	社会福祉基礎演習(後藤)	202	T5608	高齢者に対する支援と介護保険制度 (宮上・森下)	202			
	2	T5206	社会福祉援助技術演習Ⅱ(上白木)	102	T5123	保健福祉論(宮上)	102				T5202	社会福祉援助技術各論Ⅰ-b(上白木)	102	T5305	高齢者福祉論Ⅱ(西内)	102
	3				T5307	精神保健福祉論(鈴木)	101	—	精神保健福祉論(鈴木)	101	T5124	国際福祉論Ⅰ(長澤)	101	—	精神保健福祉援助技術各論(鈴木)	101
	4															
7月	1	T5419	地域福祉活動Ⅰ(住友・宮上・田中・杉原)	揭示												
	2															

注()内の人名は担当教員。下線を付した者は非常勤講師。

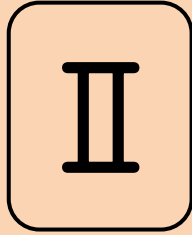
[備考] *1 平成22年度前期に開講される同科目の講義を合せて受講すること

永:開講
池:開講

教科教育法は学科に対応

※教室名で「情演」と表記しているのは、「情報処理演習室」です。「大講」と表記しているのは、「大講義室」です。「体中講」と表記しているのは、「体育館中講義室」です。

※科目コード欄が「—」になっている科目は、受講登録不要です。(受講登録してはいけません。)



社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覽

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉原 俊二	博士（医学）	児童福祉論
教 授	住友 雄資	博士（臨床福祉学）	精神保健福祉援助技術
教 授	田中 きよむ	修士（経済学）	福祉行財政論
教 授	林 美朗	博士（医学・文学）	精神医学
教 授	前山 智	博士（工学）	情報教育／X線分光
教 授	宮上 多加子	博士（社会福祉学）	介護福祉学
准教授	後藤 由美子	修士（社会福祉学）	介護福祉論
准教授	長澤 紀美子	博士（学術）	福祉政策論／国際比較研究
准教授	西内 章	修士（社会福祉学）	社会福祉援助技術論
講 師	上白木 悦子	修士（福祉社会学）	医療福祉論
講 師	鈴木 孝典	修士（文学）	精神保健福祉論
講 師	西梅 幸治	博士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	新藤 こずえ	修士（教育学）	障害者福祉論／NPO論

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○研究活動

（１）学術論文

（原著）※査読有り（２件）

杉原俊二（2009）「自分史分析のフィールドノート（IV）－元信金職員の『うつ』とのつき合い方」『人間科学研究』6, 1-12.

杉原俊二（2010）「自分史分析に関する一考察（VII）－4テーマ分析法によるライフストーリーの生成」『高知女子大学大学研究紀要（社会福祉学部編）』59, 47-66.

（研究ノート）（21件）

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（23）－学者Sの大学3年生（前篇）」『質的研究法』37, 2-7.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（24）－学者Sの大学3年生（中篇）」『質的研究法』38, 2-7.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（25）－学者Sの大学3年生（後篇）」『質的研究法』39, 2-7.

杉原俊二（2009）「自分史分析の研究（39）－F Tさんの医学部卒業・国試受験」『人間科学』31, 2-7.

杉原俊二（2009）「自分史分析の研究（40）－F Tさんの医師修業時代（前篇）」『人間科学』31, 8-13.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（26）－自己体験としての実習・職場スーパービジョン体験」『質的研究法』40, 2-7.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（27）－学者Sの短大講師1年生（前篇）」『質的研究法』41, 2-7.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（28）－学者Sの短大講師1年生（中篇）」『質的研究法』42, 2-7.

杉原俊二（2009）「自分史分析の研究（41）－F Tさんの医師修業時代（中篇）」『人間科学』32, 2-7.

杉原俊二（2009）「自分史分析の研究（42）－F Tさんの医師修業時代（後篇）」『人間科学』31, 8-13.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（29）－学者Sの短大講師1年生（後篇）」『質的研究法』43, 2-7.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（30）－学者Sの短大助教授1年生（前篇）」『質的研究法』44, 2-7.

杉原俊二（2009）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（31）－学者Sの短大助教授1年生（中篇）」『質的研究法』45, 2-7.

杉原俊二（2009）「自分史分析の研究（43）－F Tさんの医業中断時代（前篇）」『人間科学』32, 2-7.

杉原俊二（2009）「自分史分析の研究（44）－F Tさんの医業中断時代（中篇）」『人間科学』32, 8-13.

教育研究活動報告書（杉原俊二）

杉原俊二（2010）「ナラティブセラピーとしての自分史分析（32）－学者Sの短大助教授1年生（後篇）」『質的研究法』46, 2-7.

杉原俊二（2010）「4テーマ分析法による自分史分析（1）－学者Mの経歴からの検討」『質的研究法』46, 8-11.

杉原俊二（2010）「4テーマ分析法による自分史分析（2）－学者Mの短大講師への道（前篇）」『質的研究法』47, 2-7.

杉原俊二（2010）「4テーマ分析法による自分史分析（3）－学者Mの短大講師への道（中篇）」『質的研究法』48, 2-7.

杉原俊二（2010）「自分史分析の研究（45）－F Tさんの医業中断時代（後篇）」『人間科学』33, 2-7.

杉原俊二（2010）「自分史分析の研究（44）－F Tさんの医業再開とその後（前篇）」『人間科学』34, 8-13.

②学会発表等（2件）

杉原俊二「スクールソーシャルワークの研究－6ラウンドK J法の問題提起」第33回K J法経験交流会（川喜田研究所）2009年6月6日

杉原俊二「スクールソーシャルワークの実践－地域との連携を軸として」（基調講演）日本人間科学研究会第4回学術大会（大阪キリスト教短期大学）2010年1月16日

○教育活動

（1）学部

「面接技法」「児童福祉論Ⅰ・Ⅱ」「子育て社会支援論」「社会福祉現場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「福祉演習研究Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅱ－a・b」（ゼミ生4年6名、3年5名）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」

（2）大学院 人間生活学研究科（修士課程）

「児童福祉論」「課題研究演習」（正指導教員1名）

○委員会活動

（1）学部

「人事委員」「自己点検委員」「研究倫理審査委員」「教務委員」「共通教育委員」「紀要編集委員」

（2）大学院

人間生活学研究科「入試実施委員」

○社会的活動

（1）学会など

高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

日本人間科学研究会 常務理事

「最新社会福祉学研究」（吉備国際大学大学院・九州保健福祉大学大学院共同編集）、所属学会の編集協力者（査読者）

吉備国際大学大学院社会福祉学研究科博士課程 博士論文 学外審査者

教育研究活動報告書（杉原俊二）

（２）講演など

第 10 回 高知女子大学高校生公開講座「みなさんの身近にある『子ども家庭福祉』」

2009 年 8 月 3 日(月)

平成 21 年度 高知女子大学リカレント教育講座「自分史分析入門」 2009 年 10 月 3 日(土)

平成 21 年度 高知県児童福祉司講習会「児童福祉論」 2009 年 11 月 19 日、26 日(木)

平成 21 年度 社会福祉士実習指導者講習会「演習」 2010 年 1 月 11 日(月)

○総合評価と課題

教育に関しては、赴任 1 年目ではあるが川崎ゼミを引き継ぎ、4 年生の卒論指導をおこなった。社会福祉士の受験科目である「児童福祉論」では、前期にプリントなどを多く配付しての授業をおこなったところ、学生から教科書に書いてある知識を確実に理解したいという要望もあった。そこで、後期からは教科書を主体とした授業へと切り替えた。「面接技法」や「子育て社会支援論」では、視聴覚教材を用い、理解を深める工夫をした。

国家試験も新カリキュラムでの試験となり、国試対策などもおこなった。なお、担当科目の分量なども適切であったと思う。

本学部は 1 学年 30 名定員という少人数教育であり、学生の反応を見ながら、授業の進め方を変えることができたことはよかったと思う。

研究に関しては、新しいことに取り組むよりも、昨年度までの研究のデータを整理し、発表することに終始した。来年度は、それを基礎として新しいことにも取り組みたい。

委員会については、本学の方法がわからず、みなさんに教えてもらいながらの仕事であった。特に紀要編集委員としては、10 編の論文を集めることができた。感謝である。

社会的な活動については、地域貢献として「スクールソーシャルワーカー」のスーパービジョンに当たることができた。今後とも継続していき、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。また、学会誌の査読や他大学での学位論文審査といった、研究に関する後輩の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。

全体としては、赴任 1 年目ということもあり、戸惑いもあったように思う。前任校での仕事や、昨年度までの研究の整理をすることも多かった。多くの方に支えられて、この 1 年を無事に過ごすことができたことは感謝である。

住友 雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

①学術論文

稲垣佳代・住友雄資（2010）「精神障害者への『失敗を保証する』援助に関する研究」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』59, 31-46.

西内章・西梅幸治・鈴木孝典・住友雄資（2010）「保健・医療・福祉専門職の連携・協働に関する I P E の可能性－困難事例における連携・協働に着目して－」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』59, 87-97.

②著書 なし

③学会等発表 なし

④その他

住友雄資「インタビュー わがまちの障害福祉計画 高知市長・岡崎誠也氏に聞く」『ノーマライゼーション』341, 日本障害者リハビリテーション協会, 40-43.

⑤学内外資金獲得

高知女子大学学長特枠研究調査プロジェクト「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」主任研究者：住友雄資, 150 万円.

○教育活動

[学部]

- ・「福祉研究法Ⅰ」
- ・「精神保健福祉援助技術各論」
- ・「社会福祉援助技術演習Ⅲ」
- ・「精神保健福祉援助実習」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ－a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ－b」
(ゼミ生4名)

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・人間生活論演習Ⅱ
- ・スーパービジョン論
- ・課題研究演習（正指導教員5名,
副指導教員6名）

[大学院]健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・精神障害者福祉論
- ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
(主指導教員4名,
副指導教員7名)

○委員会活動

[学部]

- ・人事委員
- ・自己点検委員
- ・FD委員
- ・教務委員

教育研究活動報告書（住友雄資）

[全学]

- ・教務部長として評議会に参加した。
- ・教務部長として教務委員会を主宰した。
- ・認証評価ワーキンググループメンバー
- ・共通教育ワーキンググループを主宰した。
- ・共通教育センター（仮称）設置準備ワーキンググループを主宰した。

[大学院] 人間生活学研究科（修士課程） なし

[大学院] 健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・学務委員（社会福祉学領域）

○社会的活動

[学会や審議会など]

- ・精神保健福祉士試験委員会副委員長（2009年8月～）
- ・日本社会福祉学会 査読委員
- ・日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
- ・一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 理事兼筆頭事務局次長
- ・高知県社会福祉審議会 委員長（～2010年1月）
- ・高知保護司選考会 委員（～2010年1月）
- ・福祉工学シンポジウム2009実行委員（2009年9月24～26日、高知工科大学）

[講演など]

- ・徳島県医療ソーシャルワーカー協会主催 講演「福祉系大学と社会福祉士養成の動向」（2009年4月25日）
- ・医療法人カメラア会主催 講演「精神障害者の地域生活支援～PSWとケアマネジメント」（2009年5月12日）
- ・高知県精神保健福祉士協会主催 講演「研究発表の基礎」（2009年5月30日）
- ・日本社会福祉士会主催 社会福祉士実習指導者講習会 講義「実習指導概論」（2010年1月10日）
- ・仙台白百合女子大学主催 キャリアアップ支援研修 講演「生活支援とケアマネジメント」（2010年2月20日）
- ・高知県老人福祉施設協議会主催 講演・演習「面接技法のスキルアップ」（2010年3月26日）など

○総合評価と課題

教務部長として大学全体の教務業務を担った。全学教務や共通教育に関する調整活動が多くなった。大学改革に伴う教務関係規定の整備を行った。また共通教育センター（仮称）設置準備WGを主宰し、年度途中には中間報告をおこなった。学部内業務は、通常の学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）に加え、学部改組準備が本格化した。改組準備では学部新規採用人事に携わり、本年度も極めて多忙であった。学外業務も多忙を極めた。精神保健福祉士試験委員として、第12回精神保健福祉士国家試験問題作成を担っていたが、2009年8月から急きょ副委員長に就任することとなった。その後は試験委員会全体にかかわる業務を担った。一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会を2009年4月に立ち上げ、その理事に就任した。またその筆頭事務局次長として、事務局業務を担った。

学部全体は若手主体で活動的な教員組織になったが、各部改組を迎え、学内行政・教育・研究活動の枠組みを改める必要がある。このことに着手するのが来年度の課題である。学内業務では、教務部長の任を終え、2010年度から人間生活学研究科長に就任することにな

教育研究活動報告書（住友雄資）

ったので、大学評価・学位授与機構による認証評価結果に記された「人間生活学研究科定員充足率が低い」という課題への対応を行いたい。学外業務では、今後とも精神保健福祉士国家試験業務を担うと同時に、2010年度から一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会の事務局長に就任することになったので、学内業務とのバランスを保ちながらそれらの役割を担っていくことが課題となる。なお研究への取り組みが少ないことが最大かつ重要な問題であり、課題でもある。

田中 きよむ

Kiyomu TANAKA

○研究活動

(1) 論文・報告書

- ・田中きよむ：社会保障の公共性と地域医療・介護・福祉の再生、月刊保団連：4-8、2009（7月）
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮：限界集落における高齢者の生活実態と孤立問題、高知女子大学紀要 59：139-153、2010(3月)
- ・田中きよむ・玉里恵美子・霜田博史・水谷利亮「限界集落における孤立高齢者への生活支援」（平成21年度科学研究費基盤研究（C）報告書、2010(3月)、第1章Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ、第2章Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、第4章Ⅲ・Ⅳ）
- ・田中きよむ：地域福祉における「個別支援」と「地域づくり」、高知県社会福祉協議会「『つなぐ福祉力』の向上をめざして～点（見守り活動）・円（地域の拠点）・面（住民活動の計画）の支援における社会福祉協議会職員の役割・専門性とは～」（平成21年度高知発地域福祉実践研究会報告書、2010(3月)、第4章）

(2) 学会発表

- ・田中きよむ・水谷利亮・霜田博史「『限界集落』における高齢者の生活実態と行財政施策—高知県香美市等の事例をふまえて—」四国財政学会第47回研究会、2009（5月）
- ・田中きよむ「障害者自立支援法施行後の実態と今後の方向—高知県における第二次調査をふまえて—」四国財政学会第48回研究会、2009（12月）

○教育活動

(1) 学部

（専門教育）

1. 社会保障論Ⅰ・Ⅱ
2. 社会福祉行財政論Ⅰ・Ⅱ
3. 社会福祉専門演習Ⅰ—a・b
4. 社会福祉専門演習Ⅱ—a・b
5. 公的扶助論Ⅰ・Ⅱ
6. 社会福祉法制論

（共通教育）

1. オムニバス「土佐の健康と福祉」
2. オムニバス「福祉の世界」

(2) 大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習Ⅱ

教育研究活動報告書（田中きよむ）

○委員会活動

- ・（学部）人事委員会委員、高知女子大学社会福祉研究倫理専門審査委員会委員長、自己点検評価委員会委員
- ・（全学）入試監査委員会委員（学部）、入試監査委員会委員（大学院）
- ・（全学）地域創成センター運営委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県社会教育委員
- ・運営適正化委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 60 年史作製委員会副委員長
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・社会福祉法人第三者委員、NPO 法人理事長
- ・「これからの特別支援教育のあり方を考える会」会長
- ・「高知の移動サービスを考える会」世話人
- ・「高知女子大学・高知短期大学の未来を考える会」代表世話人
- ・「高知県視覚障害者の就労を促進する会」副会長

（講演等）

- ・津野山郷の町づくりを考える会主催講演「住民主体の幸せの地域づくり」
(2009 年 4 月)
- ・「認知症と家族の会」高知支部主催研修「成年後見と権利擁護」 (2009 年 4 月)
- ・四万十市民生委員児童委員協議会主催講演「地域福祉計画と民生委員の役割」
(2009 年 4 月)
- ・高知県社会保障推進協議会講演「社会保障の公共性と地域医療・介護・福祉の再生」
(2009 年 6 月)
- ・高知県母親大会医療・介護分科会助言者 (2009 年 6 月)
- ・高知県介護支援専門員更新研修「人格の尊重及び権利擁護」 (2009 年 6 月)
- ・高知市障害者福祉センター主催研修「障害者の権利擁護と虐待」 (2009 年 7 月)
- ・四万十町生活支援サポーターフォローアップ研修助言者 (2009 年 7 月)
- ・あさひ作業所職員研修「障害者の権利擁護と虐待」 (2009 年 7 月)
- ・高知県相談支援従事者初任者研修「相談支援における権利侵害と権利擁護」
(2009 年 8 月)
- ・香美市集落調査現地報告会① (2009 年 8 月)
- ・社会教育主事講習「地域福祉と社会教育」 (2009 年 8 月)
- ・放送大学公開講座「地域福祉と住民主体のまち・むらづくり」 (2009 年 8 月)
- ・高知市議会厚生常任委員会意見陳述 (2009 年 9 月)
- ・香美市集落調査現地報告会② (2009 年 9 月)

教育研究活動報告書（田中きよむ）

- ・土佐清水市斧積地区住民座談会基調講演「地域福祉の今とこれから」（2009年9月）
- ・中芸広域連合地域包括支援センター主催住民座談会基調講演「住民主体の地域福祉活動と地域づくり」（2009年9月）
- ・高知県教育委員会主催「大学を知る」事業（模擬授業）（2009年10月）
- ・高知女子大学社会福祉学部リカレント教育特別講座「社会保障の公共性と再構築」（2009年10月）
- ・ひかり協会高知支部主催研修「障害者自立支援法の現状と今後について」（2009年10月）
- ・香美市物部地区福祉座談会基調報告『『限界集落』における高齢者の生活実態と支援課題—香美市物部地区調査等をふまえて—』（2009年10月）
- ・香美市講演「社会保障制度改革と保育所制度のゆくえ」（2009年11月）
- ・高知市講演「社会保障制度改革と保育所制度のゆくえ～これからの保育所と新たな保育の仕組みを考える～」（2009年11月）
- ・本山町講演「みんなで支える地域福祉—住民の地域力を生かした障害福祉—」（2009年12月）
- ・高知県立盲学校講演「障害者自立支援法の現状と今後」（2009年12月）
- ・介護保険シンポジウム基調講演「介護保険制度の現状と今後」（2009年12月）
- ・いきいきフォーラム特別講演「医療・介護の制度的課題と実践的課題」（2009年12月）
- ・社会福祉法人土佐厚生会職員研修「障害者の人権」（2009年12月）
- ・社会福祉士会ソーシャルワーク研修会講演「利用者の権利を守る—高齢者・障害者・子どもの権利を考える—」（2009年12月）
- ・幡多福祉保健所主催災害時要援護者支援対策研修会講演「要援護者対策の基盤としての地域づくりと安心ネットワーク」（2009年12月）
- ・幡多医療・看護研究会講演「医療・介護の制度的課題と実践的課題」（2010年1月）
- ・高知県社会保障推進協議会講演「社会保障制度の再生に向けての課題と方向」（2010年1月）
- ・安芸市講演「新たな保育所制度のしくみで保育所はどうか」（2010年2月）
- ・さぬき市地域福祉セミナー講演「住民主体のまちづくりと地域福祉活動計画」（2010年2月）
- ・中央西福祉保健所主催「中央西地域における高齢者の見守りネットワークシンポジウム」コーディネーター（2010年2月）
- ・高知県宅老所・グループホーム連絡会主催研修会講演「地域とつながるグループホーム」（2010年2月）
- ・香川県県民福祉セミナー講演「地域で老後を支える」（2010年3月）
- ・「認知症と家族の会」高知支部主催研修「後期高齢者医療制度について」（2010年3月）
- ・南国市講演「障害者の人権について」（2010年3月）
- ・中土佐町大野見北地区住民座談会基調講演「住民主体の地域づくり」（2010年3月）

教育研究活動報告書（田中きよむ）

○総合評価と課題

- ・研究面では、科学研究費による研究成果の中間まとめをすることはできた。最近数年間の科学研究費による限界集落調査、社会福祉協議会と共同の地域福祉研究、個人的な社会保障制度研究のそれぞれを総括してゆく必要があり、来年度はそのような作業に着手したい。
- ・教育面では、講義に関しては、下級学年で獲得した基礎学力を上級になって応用的に高めていけるよう、社会保障制度に関する知識と理解能力、総合力を持続的に深めていけるような創意工夫が必要であり、来年度においては、制度変化をふまえてテキストを刷新し、学生の知的好奇心を一層喚起する授業の工夫をしてゆきたい。卒業指導に関しては、4回生は地域福祉の新しい流れや持続性、ホームレス支援や障害者の就労・生活支援に焦点を当てており、実態に即してニーズに応えられる研究成果が上がるよう指導してゆきたい。3回生は、2回生時から地域福祉に関心をもってフィールド参加してきた学生もおり、その経験を生かしつつ、地域調査研究能力の育成に配慮した指導を進めてゆきたい。
- ・社会的活動は、充実していたと言える。活動内容には個別にあげていないが、地域福祉（活動）計画の策定・実施・評価、あったかふれあいセンター（高知型福祉）やサロン、介護予防・健康づくりの評価に向けた住民や支援者とのワークショップも含め、地域ニーズや生活問題の多様化に伴い、地域と連携した貢献活動領域の広がりが見られる。

林 美朗

Yoshiro HAYASHI

○研究活動

- 学会発表：
- ・古田織部（第56回日本病跡学会＜2009.6.13＞名古屋大学）
 - ・再説！狩使本伊勢物語の復元本文呈示と二、三の考察（平成21年度第2回中古文学会関西部会＜2009.8.29＞奈良女子大学）
 - ・Oribe Furuta and Oribeism as an Outsider Art（第19回国際表現病理・芸術療法学会＜2009.9.5＞リスボン）
 - ・風景の中にある人物－通所介護事業所での実践報告－（第41回日本芸術療法学会＜2009.10.3＞東北福祉大学）
 - ・Psychopharmacology and Psychopathology of Dopaminergic System（第19回臨床精神神経薬理学会＜2009.11.13＞京都国際会議場）
- 発表論文：
- ・志賀直哉における生と死-「城の崎にて」をめぐる-（臨床死生学第14号、平成21年12月）
 - ・狩使本伊勢物語の復元本文（国語国文研究第137号、平成22年1月）
 - ・On the Tradition of Buddhism(Temples) in Japan and their Social Function-Focusing on the Aspects of their Mental Health-（高知女子大学紀要社会福祉学部篇第59号、平成22年3月）
 - ・公的総合病院精神科に求められるもの-リエゾンを通して（ふまにすむす第21号、平成22年3月）

○教育活動

担当科目：精神医学、精神保健学、他

○委員会活動

人権委員会

○社会的活動

- 学外地域貢献：細木ユニティ病院非常勤医師
東海学院大学（岐阜）国語入試問題出題委員
東海学院大学、金城学院大学、高知東高看護専攻科、
北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤（集中講義）講師
岐阜高岡家一周忌法要（2009.5.30）導師
- 講演：
- ・病跡学、表現精神病理学と臨床（H21.7.15、徳島大学精神科教室行事）
 - ・今一度「うつ」を考える（H21.11.8、高知女子大学リカレント講座）

○総合評価及び今後の課題

赴任初年度にしては、新しい環境で十全な活動が開始できたように思われる。

平成22年度は、授業科目も増えるし、新しい役職も任される。健康には十分留意して、研究活動中心に（科研費取得は絶対の天命）世界に羽ばたきたい！

○研究活動

○教育活動

講義

1 「コンピュータリテラシー」（共通教育情報科目）

永国寺キャンパスの第1情報演習室ならびに池キャンパスの情報演習室において、新入生を対象とした8クラス(文化学部4、看護学部2、社会福祉学部2)を担当し、大学での学びにパソコンを活用できるように、ワープロソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPowerPointの基本的な操作を中心に実習形式で授業を行った。パソコン操作の習熟レベルが異なる新入生が受講するため、テキストの操作のより詳しい説明やテキストに記載がない必要事項を補足するプリントを、毎回配付して授業を進めた。

2 「情報と社会」（共通教育情報科目）

看護学部と社会福祉学部の学生が受講する池キャンパスにおける後期の講義を担当した。情報通信、コンピュータ、インターネット、情報倫理を主要テーマとして、視聴覚教材も利用して講義した。授業では、上記テーマに関連した最新ニュースや技術トレンドをできるだけ取り入れるように努めた。

3 「福祉特別演習Ⅰ」（社会福祉学部専門科目）

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として、Word、Excel、PowerPointの操作のステップアップ、特にExcel操作に力点をおいて実習形式の授業を後期に行った。

4 「特別講義Ⅴ(データ解析論)」（大学院人間生活学研究科共通科目）

生活科学部谷本教授と分担して担当し、主としてExcelの統計関数を用いた相関分析・回帰分析やピボットテーブルによるクロス集計に関する実習形式の集中授業を行った。

○委員会活動

1 運営会議、評議会

社会福祉学部長として大学運営に参画。遅くとも2012年4月に法人化するという大学の方針に基づき設置された法人化移行準備委員会の委員となり、第2作業専門部会の部会長となる。

2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、大学運営会議や評議会の審議内容や決定事項を報告すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

3 学部人事委員会

人事委員長として、学部拡充に伴う2010年度採用の教員増分4名の公募を実施し、候補者を決定して、採用手続きを進めた。

4 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、大幅に募集人員を増やした2010年度の推薦入試や一般入試の円滑な実施に努めた。2010年度入試結果をもとに、2011年度入試に全国区推薦入試の導入を決定した。また、県内外で開催された進学相談会に出席して、社会福祉学部拡充のPRと志願者の確保に努めた。

教育研究活動報告書（前山智）

○社会活動

- 1 身体障害者施設アドレス高知 苦情解決第三者委員

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、2002年度に学部長就任して以来、研究活動は休眠状態である。

社会福祉学部の2009年度は、介護福祉士養成課程を設置して大幅な入学定員増を図る2010年度からの学部拡充に向けて、介護福祉士養成施設の整備と厚生労働省への申請、入学定員増とそれに伴う教員増に対応するため社会福祉学部棟の改修工事、入学定員を充足させるための志願者確保の広報活動などの諸課題に取り組んだ1年であった。各担当教員の尽力により、これらの課題をほぼクリアできたので、2010年度はリニューアルされた社会福祉学部としてスタートできることになった。今後は、教員増の採用計画に従って、優秀な教員を確保して、学生数に見合った教育体制を整えることが課題である。

教育活動においては、「コンピュータリテラシー」、「福祉特別演習Ⅰ」、「特別講義Ⅴ（データ解析論）」の授業で使用している情報演習室のパソコンが7年ぶりに更新されて、2010年度からハードとソフトが新しくなるので、授業内容についても更新することが必要である。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（１）論文

宮上多加子(2010)「高齢者福祉施設に勤務する介護福祉士のキャリア意識—職務意識に関する面接調査の質的分析から—」高知女子大学紀要社会福祉学部編，第59号，1-11.

（２）学会発表

宮上多加子：高齢者福祉施設に勤務する介護福祉士の職務意識に関する研究—KOMI理論における教育論に基づく分析—，第13回KOMI理論学会（名古屋），2009年10月.

池つた江・宮上多加子・ほか：KOMI理論導入過程における看護職員の意識変容とケアへの影響，第13回KOMI理論学会（名古屋），2009年10月.

○教育活動

講義の概要

[学部]

1. 「高齢者に対する支援と介護保険制度」

新カリ科目として本年度より開講された科目である。看護学部教員とオムニバスにて担当した。

2. 「介護演習Ⅱ」

体験的な演習や、学外の専門職をゲストスピーカーとして招く等により、学内実習設備の不備を補う工夫をした。この科目は、今年度限りの開講となる。

3. 「保健福祉論」「母子保健論」

「母子保健論」では母性の発達と健康上の課題について、今日的な課題を取り上げた。両科目とも、今年度限りの開講となる。

4. 「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ」

本年度の受講者は3名である。研究活動に関する基礎的な力を身に付けることができることを目標とした継続的な指導を行った。

5. 「社会福祉専門演習Ⅱ—a・b」

本年度の受講者は5名であり、卒業研究論文の指導を行った。なお、福祉研究演習および社会福祉専門演習の成果については、例年通りゼミ記録として冊子にまとめた。

6. 「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」

ゼミ生を中心とした少人数の受講者であったが、学外の病院・施設の見学や研修会への参加等を取り入れた。

7. 「保育学（実習および家庭看護を含む）」

生活科学部にて開講されている科目であり、オムニバスで担当した。

[大学院（人間生活学研究科）]

1. 「介護福祉学」

介護福祉に関係した理論と現状、介護福祉に関する論文の紹介等を通して、介護福祉が果たす役割と課題に関する検討を行った。

教育研究活動報告書（宮上多加子）

2. 論文指導

正指導教員としてM1生2名、M2生1名、副指導教員としてM1生1名、M2生以上5名を担当した。修士論文作成に関するディスカッションの場として、院生だけでなく大学院研究員の参加も募り、大学院ゼミを定期的開催した。

[大学院（健康生活科学研究科）]

副指導教員として、院生6名の論文指導を担当した。

○委員会活動

[学部]

1. 評議員
2. 全学教務委員会／学部教務委員会（委員長）／学部FD委員会（委員長）
3. 学部人事委員会／自己点検評価委員会
4. 学部倫理審査委員会
5. 総務委員会／予算委員会

[大学院（健康生活科学研究科）]

1. 入試委員

○社会的活動

1. 高知市民生委員推薦会委員
2. 日本地域福祉学会地方部会委員
3. 日本認知症ケア学会生涯学習委員会四国部会委員
4. 高知県福祉基金理事
5. 高知県医療審議会委員

○公開講座等

1. 高知県社会福祉協議会介護福祉士養成講座講師（10月）
2. 学部FD研修事業研修会コーディネーター（11月）
3. 健康長寿設立準備室看護学部事業「認知症出前講座」参加（1月）
4. 健康長寿設立準備室社会福祉学部事業「介護福祉士養成教育公開講座」講師（2月）

○総合評価と今後の課題

今年、介護福祉士養成課程導入に伴うカリキュラム検討および施設設備に関する具体的作業が大きな比重を占めました。池キャンパス整備事業の進捗状況の関係で、四国厚生支局の現地調査が3月実施となり、スケジュールの遅れに気をもむ1年でした。ハード・ソフト面の準備に加えて、いわゆる「若者の介護職離れ」という社会的状況も加わり、介護福祉コースを希望する学生確保が新たな課題となりました。様々な懸念材料も多かった準備期間でしたが、介護福祉コース希望者は、定員30名中17名（56.7%）となり、予想より若干少なかつたものの、初年度の学生数としては適正規模でスタートを切ることができました。

研究面においては、昨年度のリカレント特別講演で取り上げたKOMI理論をきっかけとして、新たに「Kゼミ」を発足させました。これは、KOMI理論に関心のある病院の看護師や大学院研究員等に参加を呼びかけ、毎月定期的にゼミを開催することで、大学の地域貢献の一つとして研究や情報交換の場を提供しようとする試みです。このKゼミで調査し

教育研究活動報告書（宮上多加子）

た内容を、10月の学会で発表することででき、大学と医療・福祉分野の人材をつなぐ場として機能させるきっかけを作ることができました。次年度以降は、大学内では介護福祉教育の中で **KOMI** 理論をどのように組み込んでいくか、また Kゼミとしての活動をどのように活性化していくかが課題となると思います。

後藤 由美子

Yumiko GOTO

○研究活動

（１）論文

なし

（２）研究ノート・報告書

1. 佐瀬美恵子、臼井キミカ、上西洋子、佐々木八千代、後藤由美子「フィンランドの認知症高齢者ケアーロヴァニエミ市・タンペレ市におけるインタビューからー」甲南女子大学研究紀要（看護学・リハビリテーション学編）第3号、161-171
2. 中井久子、後藤由美子、マリア・レイナルース・カルロス「介護現場における在日フィリピン人介護士との異文化コミュニケーションワークショップ報告書」
3. 高畑幸、中井久子、マリア・レイナルース・カルロス、後藤由美子、鈴木伸枝「2008在日フィリピン人介護者調査報告書」

（３）学会発表

1. 後藤由美子・中井久子「在日フィリピン人介護士雇用における現場の課題」日本老年社会科学会第51回大会（神奈川）、2009年6月
2. 後藤由美子・中井久子「インドネシア人看護師・介護福祉士候補者受け入れ施設の現況調査」日本地域福祉学会第23回大会（岐阜）、2009年6月
3. 後藤由美子「外国人を受け入れる施設側が期待するものーインドネシア人受け入れ施設の現況調査からー」日本国際文化学会第8回全国大会（佐賀）、2009年7月
4. 後藤由美子・中井久子「インドネシア人介護福祉士候補者と受け入れ施設の意識と課題」日本社会福祉学会第57回全国大会（東京）、2009年10月
5. 佐瀬美恵子・後藤由美子「特別養護老人ホームの看取りを支えるケアカンファレンスーカンファレンス記録にみるターミナルケアー」日本社会福祉学会第57回全国大会（東京）、2009年10月
6. 後藤由美子・佐瀬美恵子・兼田美代・上村聡子・山内恵美「住み慣れた施設で最期を迎えるためのケアを考えるー介護職の役割を中心にー」日本健康福祉政策学会第13回学術大会（高知）、2009年10月
7. 佐瀬美恵子・山内恵美・上村聡子・兼田美代・後藤由美子「家族と協働する終末期ケアーカンファレンス記録にみる家族とスタッフの関係ー」日本認知症ケア学会第10回大会（東京）、2009年10月

（４）研究資金の導入

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「生活支援職における異文化コミュニケーション教育研修プログラムの開発」（研究代表者 後藤由美子）（平成21年～23年度）

○教育活動

（1）担当科目

「社会福祉入門演習」

「社会福祉基礎演習」

「福祉の世界」（オムニバス）

（2）介護福祉士養成課程申請に関する業務

平成22年度開設に向けて、実習室及び教育関連機器等の準備

教育研究活動報告書（後藤由美子）

○委員会活動

全学：教職課程専門委員、図書委員（総合情報センター運営委員）

学部：教務委員、FD委員、新カリキュラム検討委員、入試実施委員、1回生学年担当

○社会的活動

公開講座等

- ・社会福祉学部「高校生のための公開講座」講座②「介護する・介護されるとは」担当、2009年8月
- ・社会福祉学部リカレント教育講座「最期まで寄り添う介護を考える」、2009年11月
- ・高知女子大学健康長寿出前講座（吾北中央公民館）認知症疑似体験、2010年1月
- ・健康長寿センター設立準備室事業：公開講座「新時代を拓く介護福祉教育」企画・実施（共同）、2010年2月

○総合評価及び今後の課題

今年度着任し、年間を通して右往左往していたような気がします。主たる業務としては、介護福祉士養成課程の申請業務で、新たに建築された看護福祉棟の実習室内の設備や介護教育機器・図書・演習用物品の整備に終始しました。厚労省の現地調査も予定より大幅に遅れ、3月末でやっと認可の見込みとなりました。

教育活動では、学年担当の役割や大学・学部組織運営について理解することを最優先としました。授業の展開方法は試行錯誤をしながら進めましたがさらに創意工夫をしていきたいと思っています。

研究活動では、科学研究を中心にフィリピンでの調査、これまでの研究活動を学会で発表することができました。しかし、論文にすることができず来年度の課題です。

委員会活動・社会的活動では、経験を重ね、学内はもとより地域活動にも積極的に関わっていきたいと思っています。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（1）論文（2件）

1. 長澤紀美子(2009)「ブレア労働党政権以降のコミュニティケア改革－高齢者ケアに係わる連携・協働と疑似市場における消費者選択」『海外社会保障研究』169, 54-70.
2. 長澤紀美子(2010)「高齢者介護施設のコンプライアンス－オーストラリアおよびイギリスにおけるコンプライアンス態勢構築に向けた方策－」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』59, 67-85.

（2）報告（1件）

- ・ 長澤紀美子・新藤こずえ（2009）「国際ソーシャルワーク教育の開発について」（『高知女子大学学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書（“生命輝いて生きる・高知”）』「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者：住友雄資）の一部），12-37.

（3）学会参加（1件）

- ・ 社会政策学会（第119回）全国大会（2009年度春季大会）（於：日本大学法学部）平成21年5月24日（日）第8分科会（保健医療福祉部会）「医療サービスにおける患者参加－実証的な研究動向を中心に」（コーディネイター、コメンティーター）

（4）学内外の競争的資金の獲得状況（2件）

- ・ 高知女子大学学長裁量経費特別調査研究プロジェクト「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者：住友雄資）の一部「国際ソーシャルワーク教育の開発について」（長澤紀美子・新藤こずえ）（平成20～22年度）
- ・ 文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B一般）「利用者本位の介護サービスの提供に関する実証研究」（主任研究者：小山秀夫・静岡県立大学教授）（平成21年度～平成24年度）における分担研究者

○教育活動

（1）学部

- ・ 「社会福祉概論Ⅱ」「現代社会と福祉」
- ・ 「国際福祉論Ⅰ」
- ・ 「女性福祉論」
- ・ 「女性の生活と健康」（オムニバス：2回担当）
- ・ 「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」受講者5名
- ・ 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・Ⅱ－b」受講者3名
- ・ 「社会福祉外書講読Ⅰ」「社会福祉外書講読Ⅱ」
- ・ 「国際福祉論Ⅱ」本年度は受講生なし。

教育研究活動報告書（長澤紀美子）

（2）大学院人間生活学研究科

- ・ 「国際福祉政策論」
- ・ 「人間生活福祉政策論」（オムニバス：2回担当）
- ・ 正指導教員としてM3生1名、副指導教員としてM1生3名 M2生2名 M3生1名を担当。

○委員会活動

- ・ 学部総務委員長・予算委員長
- ・ 全学広報委員
- ・ 大学院人間生活学研究科学位審査委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・ 高知県佐川町公文書開示審査会委員、高知県佐川町個人情報保護審査員
- ・ 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団運営委員会委員長、ソーレえいど事業・県民からの企画提案事業選考委員
- ・ 社会政策学会春季大会企画委員（保健医療福祉部会選出）

（2）公開講座等

- ・ （社）日本社会福祉士会主催 社会福祉士実習指導者講習会高知会場「実習プログラミング論」講師（2010年1月10日）

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

必修科目（「現代社会と福祉」：旧カリキュラムでは「社会福祉概論」）は旧カリキュラムの最終年度および新カリキュラムの最初の年度を並行して担当したが、どちらも国家試験の出題内容である新カリキュラムに対応した内容に改め、現代の社会問題や社会福祉と他領域との関連について、学生が関心をもって学べるよう工夫した。また試行的にTBL方式を採用し、個別・グループ別に課題に取り組み、理解度の確認をおこなった。また選択科目である「国際福祉論Ⅰ」「女性福祉論」でも、現代の切迫した社会問題や国家試験の出題内容に関するテーマを取り上げた。尚一層、内容の正確な理解並びに学習モチベーションの向上に繋がるよう、授業改善に取り組みたい。

（2）研究活動について

イギリスやオーストラリアの医療福祉制度を継続的に研究し、2月にオーストラリアを訪問、現地の研究者と意見交換の機会を持った。次年度は現地調査を実施し、研究成果の公表や取りまとめをしたい。

（3）その他

今年度は、学部総務委員長・学部広報委員長として、学部拡充に伴う施設・備品設備に関する業務および定員増に伴う広報活動が業務の中で大きな比重を占めた一年であった。年度末の改修工事の遅れにもかかわらず、学部教職員・学生の一致団結した協力により、新学期迄に整備を終えることができた。拡充に伴う備品整備や広報業務は、ひとまず目途がついたとはいえ、次年度以降も継続して取り組むべき課題である。

西内 章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

・著書

1. 西内章ほか（2009）『クエスチョン・バンク社会福祉士 国家試験問題解説 2010』メディックメディア.

・論文

1. 西内章・西梅幸治・鈴木孝典・住友雄資（2010）「保健・医療・福祉専門職の連携協働に関する IPE の可能性」高知女子大学紀要社会福祉学部編, Vol. 59, 87-97.

・報告

1. 新藤こずえ・西梅幸治・西内章（2009）「高知県における初任スクールソーシャルワーカーの実践課題ー子どもとの関わりに焦点をあててー」日本学校ソーシャルワーク学会第4回大会（東京学芸大学、7月4・5日）.

○教育活動

[学部]

- ①「社会福祉援助技術総論Ⅰ」
- ②「社会福祉援助技術総論Ⅱ」
- ③「高齢者福祉論Ⅰ」
- ④「高齢者福祉論Ⅱ」
- ⑤「相談援助の基盤と専門職」
- ⑥「社会福祉ふれあい実習」
- ⑦「社会福祉現場実習Ⅰ」
- ⑧「社会福祉現場実習Ⅱ」「社会福祉現場実習Ⅲ」
- ⑨「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ⑩「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」

[大学院人間生活学研究科]

- ①ソーシャルワーク論
- ②人間生活論演習Ⅱ

○委員会活動

- ①学部実習委員長
- ②高知女子大学社会福祉研究倫理専門審査委員
- ③大学院人間生活学研究科学務委員

○社会的活動

[学外での活動]

- ・高知県社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業契約締結審査委員
- ・高知県社会福祉協議会生きがい健康づくり推進協議会委員

教育研究活動報告書（西内章）

[研修会講師・講演]

- ・ 2009 年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」担当
- ・ 2009 年度高知県スクールソーシャルワーカー活用事業の説明会講師（宿毛中学校）
- ・ 2009 年度高知県社会福祉士会主催 相談援助職ソーシャルワーク研修会講師
- ・ 2009 年度高知県医療社会事業協会研修会講師

○総合評価と課題

ここ数年、教育活動、学内業務、研究活動の-effort に留意している。2009 年度入学生から、社会福祉士養成の新カリキュラムが適用されたこともあり、旧カリキュラムと新カリキュラムを並行して実施している。この2つのカリキュラムの演習と実習をどのように実施するか、また、新カリキュラムでは、複数の教員が同じ科目を担当することが多くなることから、授業内容と担当教員の調整を行い、スムーズな演習・実習教育体制を構築することが喫緊の課題である。2010 年度以降も、引き続き、これに望むことになる。学部の教員も増員される計画であることから、教員の連携が不可欠である。

また、研究活動においては、次年度以降に向けた基礎研究を進めた1年であった。これを基盤にして次年度以降、自らの研究活動の成果をまとめていきたい。

上白木 悦子

Etsuko KAMISHIRAKI

○研究活動

1. 学術論文

- 1) 前田正一, 上白木悦子. 治療行為の差し控え・中止の許容性と臨床倫理コンサルテーションの意義. *CCU と ICU* 33(11): 825-32, 2009.
- 2) Etsuko Kamishiraki, Shoichi Maeda, Noriaki Ikeda. The acceptability of decision to withdraw life-sustaining treatment based on the living will and substituted judgment involving decision –The tendency of judiciary decisions and guidelines in Japan. *Legal Medicine*, 11, 396-8, 2009.

2. 競争的資金の獲得状況

- 1) 財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 在宅医療助成「在宅末期医療における治療の差し控え・中止に関する基礎的研究－在宅医療の促進に向けた、末期医療の実態および意識調査とそれに基づく要件・手続きの検討－」（代表研究者）
- 2) 日本興亜福祉財団ジェロントロジー研究助成「高齢者（特に判断能力を欠く者）に対する医療と代諾-質問紙調査とそれに基づく代諾の可否、および代諾の要件・手続きに関する考察」（代表研究者）
- 3) 平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療関連死における剖検に関する実態および意識調査（H21－医療－一般－009）（協力研究者）
- 4) 日本医師会総合政策研究機構「医学部・看護学部における医療安全教育に関する調査研究」（共同研究者）

○教育活動

1. 学部

- ・医療福祉論
- ・医療ソーシャルワーク論
- ・ケアマネジメント論
- ・ケアマネジメント演習
- ・社会福祉入門演習
- ・社会福祉基礎演習
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・社会福祉現場実習Ⅱ
- ・社会福祉現場実習Ⅲ
- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導
- ・福祉の世界（オムニバス）
- ・福祉研究演習Ⅰ
- ・福祉研究演習Ⅱ
- ・福祉研究演習Ⅲ

教育研究活動報告書（上白木悦子）

○委員会活動

1. 学部

- (1) 実習委員
- (2) 研究個人情報保護・倫理審査委員
- (3) 入試実施委員
- (4) 国際交流委員

○社会的活動

1. 公開講座

1) 2009 年度高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座「末期医療における治療行為の中止の問題を考える」；特別講演「治療行為の差し控え・中止の判断－いったん装着した人工呼吸器は本当に心停止まで取り外すことができないのか」(慶應義塾大学大学院准教授・前田正一) におけるコーディネーター及びキーレクチャー「患者に判断能力がない場合の対応－患者の意思の推定および代諾の許容性」

○その他

- 1) 2009 年度四国地区大学教職員能力開発ネットワーク開催によるFD／SDフォーラム出席（平成 21 年 9 月 8 日、同月 9 日開催・於：愛媛大学）
- 2) 2009 年度全国社会福祉教育セミナー出席（平成 21 年 11 月 7 日、同月 8 日開催・於：鹿児島国際大学）
- 3) 2009 年度社会福祉士実習指導者講習会（平成 21 年 1 月 10 日、同月 11 日開催・於：高知女子大学）

○総合評価及び今後の課題

・各講義においては、TBLの手法を用いる等し、学生が自ら考え、学習する機会を設定した。今後は、当該学習効果を確認する機会を設定したい。

・この期間における研究活動は、患者の自己決定権とそこにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関するものであった。今後の研究課題は、患者の自己決定と医療ソーシャルワーカーの役割に関する実態調査につき対象範囲を拡大し、研究を深めていくことである。

・地域の関連機関等との連携は、十分に行えなかったもので、次年度以降の課題としたい。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

（１）学術論文

西内章、西梅幸治、西内章、鈴木孝典、住友雄資「保健・医療・福祉専門職の連携・協働に関する I P E の可能性-困難事例における連携・協働に着目して」
『高知女子大学紀要』Vol. 59、2010. 3、pp. 87-97.

（２）著書

鈴木孝典「サービスの提供方法」西村昇、日開野博、山下正國 編『四訂版 社会福祉概論-その基礎学習のために』中央法規出版、2010. 3、pp. 131-136

（３）競争的資金の獲得

科学研究費補助金（若手(B)、課題番号:19730363、平成19年度～21年度）

研究代表者：鈴木孝典

研究課題名：「精神障害者に対する自立支援サービスにおけるリスク評価尺度の開発研究」

平成21年度学長特枠研究

研究代表者：住友雄資

研究課題名：「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」

○教育活動

（１）講義

[学部]

1. 「精神保健福祉論」
2. 「精神保健福祉援助実習」
3. 「精神保健福祉ふれあい実習」
4. 「福祉研究演習Ⅰ」、「福祉研究演習Ⅱ」
5. 「社会福祉専門演習Ⅱ-a」、「社会福祉専門演習Ⅱ-b」

[大学院]

1. 「障害者福祉論」

（２）講義以外

1. 実習支援

配属実習に備えての実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」、「精神保健」の2教科にかかわる受験対策講座を開講した。

教育研究活動報告書（鈴木孝典）

○委員会活動等

（1）学部

1. 実習委員
2. 情報処理委員
3. 就職委員
4. 入試実施委員
5. 4回生学年担当

（2）全学

1. 総合情報センター情報処理部会員
2. 入試実施委員（センター試験部会委員）
3. キャリアセンター運営委員

○社会的活動

（1）委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 運営委員（2008年4月～）
2. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
3. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 広報委員
4. 高知県自立支援協議会 委員（2008年2月～）
5. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
6. 高知市自立支援協議会 運営会議メンバー（2009年4月～）
7. 社会福祉法人土佐あけぼの会 第三者委員（2009年4月～）

（2）講演等

1. 平成21年度高知県相談支援従事者初任者研修 講師（8月12日）
2. 高知県社会福祉協議会 介護福祉士国家試験準備講座 講師（10月6日）
3. 高知市相談支援事業所生活支援検討会 助言者
（10月28日、11月13日、2月17日）
4. 一般社団法人精神保健福祉士養成校協会 平成21年度精神保健福祉士国家試験直前
講座「精神保健福祉論」（12月20日）
5. 高知県精神保健福祉士協会新人研修会 コーディネーター（12月5日、6日）
6. 高知県社会福祉士会 step up 研修会 講師（3月6日）

（3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉概論」担当）

○その他

（1）中期研修

1. 研修期間：2009年4月1日～7月31日
2. 研修テーマ：精神障害者地域生活支援に係る評価指標開発のための調査研究
スキルの研鑽
3. 研修場所：大正大学大学院

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

①担当する科目と関連する科目との授業内容の調整を試みることに、②担当科目の内容を理解するための基礎知識を再学習するための教育プログラムの企画、実施を試みることに、この２点を今年度の主課題とした。①については、シラバス分析やリアクションペーパー、学生への聞き取りなどを通して、授業内容の一部を関連科目との関連を考慮し、変更した。②については、政治学及び社会学の基礎知識について、授業内容に盛り込んだ。来年度は、授業改善の効果について測定するためのティーチング・ポートフォリオを設計することを教育活動の課題とする。

（２）研究活動について

今年度は、前半に中期研修の機会を得て、最新の質的研究法と量的研究法を組み合わせた研究手法を用いた、精神障害者の居住支援に係る評価指標の開発的研究を展開した。来年度は、新たに獲得した科学研究費補助金を活用し、評価指標のフィールドテストを展開する予定である。併せて、学長特枠研究プロジェクトにおいても、今年度に引き続き、共同研究者として一定の役割を果たしていきたい。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（１）研究会参加

エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院太田義弘教授が主催）への参加
高知県スクールソーシャルワーカー研究会への参加

（２）研究資金の導入

- ・文部科学省科学研究費若手研究（B）「コンピュータ支援ツールを用いた知的障害のある人との協働アセスメント方法の構築」（平成19～21年度）
- ・文部科学省科学研究費基盤研究（B）「分担研究：ソーシャルワーク教育における研修方法とプログラムの開発に関する研究」（平成20～23年度）
- ・文部科学省科学研究費挑戦的萌芽研究「分担研究：生活支援実践ツールの試行から実践導入への検討」（平成21～23年度）
- ・西内章・鈴木孝典・西梅幸治（2009）「分担研究：高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育研修モデル開発について」『平成20年度学長裁量プロジェクト：健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究（主任研究者 住友雄資）』

（３）学会参加

日本学校ソーシャルワーク学会、日本社会福祉学会への参加
発表：新藤こずえ・西梅幸治・西内章（2009）「高知県におけるスクールソーシャルワーカーの実践課題ー子どもとの関わりに焦点をあててー」第4回日本学校ソーシャルワーク学会（東京）

（４）論文等

論文：西内章・西梅幸治・鈴木孝典・住友雄資（2009）「保健・医療・福祉専門職の連携・協働に関する IPE の可能性ー困難事例における連携・協働に着目してー」『高知女子大学紀要』59, 87-97.

○教育活動

（１）担当科目

- | | |
|------------------|------------------|
| ・「総合演習」 | ・「相談援助の基盤と専門職」 |
| ・「社会福祉援助技術各論Ⅰ-a」 | ・「社会福祉援助技術各論Ⅱ-a」 |
| ・「社会福祉援助技術演習Ⅰ」 | ・「福祉研究演習Ⅰ」 |
| ・「福祉研究演習Ⅱ」 | ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」 |
| ・「社会福祉専門演習Ⅱ-b」 | ・「社会福祉ふれあい実習」 |
| ・「社会福祉現場実習Ⅰ」 | ・「社会福祉現場実習Ⅱ」 |
| ・「社会福祉現場実習Ⅲ」 | |

（２）クラブ活動

- ・手話サークル顧問
- ・グローバルクラブ顧問

○委員会活動

（１）全学

- ・入試実施委員

（２）学部

- ・入試委員長
- ・実習委員（日本社会福祉士養成校協会担当）
- ・総務・予算委員
- ・学部3回生学年担当

○社会的活動

- ・高知県社会福祉士会 理事
- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知市教育研究所 運営委員
- ・高松大学発達科学部 非常勤講師
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

研究活動については、学会発表、論文作成などに十分とはいえないが時間を割くことができた。特に研究会では、社会福祉サービス利用者の生活状況理解のための協働アセスメント方法と、その方法に基づいたコンピュータ支援ツールの研究と開発に継続的に参加できており、有意義な時間をもつことができた。科学研究費のテーマに関しても、先行研究の涉猟や調査に取り組むことができた。今後は、その成果をまとめていきたい。

（２）教育活動について

授業準備：

授業では、レジメを作成・配付し、パワーポイントによるスライドも導入しながら、学生が重要なポイントを理解できるように工夫した。またレジメの他にも資料を配付し、学生の理解度を高めるように努力したつもりである。学生からコメントカードを得ながら、授業展開の修正を行った。今後も継続して改良に取り組んでいきたい。

授業展開：

授業のなかでは、学生たちの「聞く」「見る」「書く」「話す」をバランス良く表現でき、「理解する」「考える」「体験する」ことができるような工夫が必要だと感じている。特に援助技術系の科目については、今年度、映像や事例などをおして具体的な状況がつかめるように工夫した。今後も、理論と実践を十全に融合し理解できるような工夫を重ねたい。

社会福祉現場実習指導：

実習科目では、少人数制を活かし、face-to-faceでの個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互い共感や考え方を深めることを重視してきた。今年度は学生同士のグループ作業に内容理解や自省に関して効果がみられ、それが身につくような個別指導を行うように努めた。

卒論指導：

今年度は、2名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、ゼミでの相互作用をおして、指導に取り組んだ。研究テーマについては、以下の通りである。

- ・「ファミリーソーシャルワークにおける家族再統合への支援方法に関する一考察ー若年層の母親の虐待事例に着目してー」

教育研究活動報告書（西梅幸治）

- ・「地域福祉計画策定過程における住民参加の促進方法に関する一考察－市町村行政の役割に着目して－」

（3）委員会活動・社会的活動について

入試実施委員としては、本年度も滞りなく業務を遂行することができた。高知県社会福祉士会理事としては、社会福祉士実習指導者講習会の開催に携わり、県内に 89 名の実習指導者を養成することができた。今後も努力と経験を重ね、委員会活動・社会的活動を通じて、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

新藤 こずえ

Kozue SHINDO

○研究活動

(1) 論文・報告書（2件）

新藤こずえ「高知県における福祉教員の実践とスクールソーシャルワーク活動に関する考察」高知女子大学紀要（社会福祉学部編）59, 125-138.

長澤紀美子・新藤こずえ「国際ソーシャルワーク教育の開発について」『学長裁量経費特別調査研究プロジェクト報告書“生命輝いて生きる・高知”』（プロジェクト1「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者 住友雄資）の一部）高知女子大学

(2) 著書（なし）

(3) 発表（2件）

新藤こずえ「親と暮らす重度障害児・者の自立－親への質問紙およびインタビュー調査を中心に－」日本社会福祉学会第57回全国大会2009年10月

新藤こずえ・西梅幸治・西内章「高知県における初任スクールソーシャルワーカーの実践課題－子どもとの関わりに焦点をあてて－」日本学校ソーシャルワーク学会第4回大会2009年7月

(4) 学内外の競争的資金の獲得状況（2件）

文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））「親と暮らす障害のある若者の自立に関する研究－日常生活構造と将来生活設計に着目して」（研究代表者 新藤（太田）こずえ）（平成19年～21年度）

高知女子大学学長特別枠研究・事業助成費「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者 住友雄資）のうち、「国際ソーシャルワーク教育の開発について」（分担：長澤紀美子・新藤こずえ）（平成21年度）

(5) その他（1件）

木下くみ子・山崎水紀夫・上田健作・新藤こずえ・半田雅典編（2009）『広げる・つなげる・高める～市民活動の歩みとともに～』高知県ボランティア・NPOセンター（高知県ボランティア・NPOセンター10周年記念）

○教育活動

講義：障害者福祉論Ⅰ、障害者福祉論Ⅱ、社会福祉特論、社会福祉ふれあい実習、社会福祉現場実習Ⅰ、社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉ふれあい実習、精神保健福祉援助実習、土佐の健康と福祉（オムニバス）、福祉の世界（オムニバス）

○委員会活動

全学／学部学生委員会、学部実習委員会、学部教務委員会、学部総務委員会、学部予算委員会、学部入試委員会、国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

(1) 委員等

- ・高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 「福祉・ボランティア」学びと実践推進委員会副委員長
- ・高知県社会貢献活動支援推進会議委員
- ・高知県社会貢献活動支援推進会議質的評価検討会委員
- ・高知市まちづくりファンド運営委員会委員
- ・香美市障害者自立支援協議会 相談支援部会「重症心身障害者の在宅支援について」検討メンバー
- ・特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会会員
- ・高知市民会議主催「とさっ子タウン」実行委員会委員

(2) 学外講師等

- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー（南国市教育委員会配置）
- ・国立病院機構高知病院附属看護学校非常勤講師（「社会福祉・演習」を担当）
- ・新見公立短期大学非常勤講師（「社会福祉」「社会福祉援助技術」）
- ・高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師（「障害者福祉論」「社会福祉援助技術」を担当）
- ・高知県主催児童福祉司養成講習会講師（「障害者福祉論」）
- ・高知中学校「中学生のハローワーク」講師（「大学の教員の仕事」）
- ・こうちNPOフォーラム2009実行委員会ほか主催「こうちNPOフォーラム2009～そこにもここにもNPO」実行委員、（テーマ市仕掛け人として『福祉NPOのミッションと運営～みんなの悩み：ヒト・モノ・おカネをどう集め、活かすか！？～』を担当）

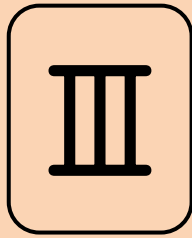
(3) 社会福祉士および精神保健福祉士国家試験を受験する学生への支援活動

- ・学習方法に関する相談支援活動・アンケートに基づく個別アドバイス（随時）
- ・国家試験ガイダンスの実施（4回）
- ・試験対策講座の実施（障害者福祉論）
- ・模擬試験の受験取りまとめ
- ・国家試験勉強合宿へ同行しての学習支援

○総合評価と今後の課題

教育活動は、本年度から障害者福祉論Ⅰ・Ⅱを担当したことが新たな取り組みであった。旧カリキュラムの最後学年であるが、国家試験は新カリキュラムが適用となる学年への講義であったため、内容・進め方に検討を要した。次年度は、完全に新カリの内容となるので、さらに改良を重ねたい。また、4回生への国家試験受験の支援では、学生との面談等で学生自身がライフスタイルに合わせて計画的に学習をすすめられるよう助言を行った。微力ながら本学の社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率の維持・向上に寄与することができたと考えている。

研究活動は、一昨年からの科学研究費（若手研究B）を得て行っている研究「障害のある若者の自立」の最終年度であったが、フィールドワークの時間が十分に確保できなかった。論文としての成果は次年度にまとめたい。一方、昨年度からのスクールソーシャルワーカーとしての活動は、論文・学会発表という形で成果として残すことができた。



社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動報告書)

教務委員会（学部FD委員会を含む）

宮上 多加子

（1）教務委員会の開催

学部教務委員会は、平成21年4月から平成22年2月までに、合計6回の会議を開催した。

（2）介護福祉士養成課程導入および教職廃止に伴う学部カリキュラムの再編

前年度に検討した学部新カリに加えて、平成22年度入学生から適用される介護福祉士養成課程に対応したカリキュラムについて、新カリ検討委員会で作成した原案を検討し、学則および履修規程の変更を行った。また、教職課程については、過去数年間履修者がおらず、在学生にも取得希望者がいないことから、平成22年度入学生より廃止することとした。

（3）卒業研究論文に関する三発表会の実施

4回生履修科目の「社会福祉専門演習Ⅱ-a, b」における卒業研究論文作成のため、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成するとともに、例年同様3回の発表会を開催した。卒論構想発表会は5月20日と27日、卒論中間発表会は10月21日、卒業研究論文発表会は2月23日に実施した。発表形式は昨年度と同様に、構想発表と最終発表は口頭発表、中間発表はポスター発表とした。新しい試みとして、中間発表の際に3回生が各ブースでの司会と記録係を担当した。

（4）次年度の3回生ゼミ配属について調整

12月に『平成22年度福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ選択資料』を作成し、2回生に配付したうえで、ゼミ配属に関する希望をまとめた。少人数での指導体制確保と学部棟改修によりゼミ室の面積が縮小されることから、1ゼミあたりの上限を4名までとして調整した。結果的に、11のゼミに2名～4名の希望者が決定した。

（5）学部FD研修会の開催

平成22年度に介護福祉士養成がスタートすることから、「社会福祉学部の介護福祉士養成課程導入に伴う体制整備と地域連携」をテーマとして、11月22日（日）に学部FD事業研修会を開催した。講師は、岩手県立大学の鈴木聖子教授と、阿部明子実習講師にお願いし、三福祉士に対応したカリキュラムを持つ大学における介護福祉教育の現状と課題について講演と質疑応答を行った。参加者は、学部教員と県内養成校教員数名であった。

（6）今後の課題

平成21年度入学生から新カリキュラムが適用され、平成22年度からは介護福祉士のカリキュラムが加わる等、数年間は年度ごとに新旧カリキュラムが入れ替わる形で移行していく。この中で、旧カリキュラムの平成20年度以前の入学生の履修状況によっては、必要単位の履修漏れが起こりうる。学生数増加に伴って、カリキュラムの個別対応にも限界が生じることから、今後は進級に関する基準についても検討していく必要がある。また、開講科目が増加することから、講義形態や時間割の工夫についても次年度の教務委員会の課題である。

入試委員会

西梅 幸治

○平成 21 年度委員会の体制

2009 年度（平成 21 年度）の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を学部長、全学入試実施委員を西梅・上白木・鈴木、学部入試委員を後藤・新藤、センター試験部会委員を鈴木が担当した。

○本年度入試の概況

今年度実施された入試の結果は、以下の表のとおりである。

選抜方法	募集人員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数	合格倍率 C/D	志願倍率 B/A
1)一般推薦	20	26	26	20	20	1.3	1.3
2)前期日程	45	152	136	54	43	2.5	3.4
3)後期日程	5	107	57	16	12	3.6	21.4
4)私費留学生	若干人	0	0	0	0	—	—
計	70	285	219	90	75	2.4	4.1

2)前期日程の課題図書－大江正章（2008）『地域の力－食・農・まちづくり－』岩波新書

○本年度入試の特徴

- ・学部のアドミッションポリシーを修正した。
社会福祉学部は、地域の福祉課題に対応できる実践能力をもち、保健・医療・福祉などのさまざまな分野の関係者と連携できる社会福祉専門職の養成を目指しています。
したがって、社会福祉学部では、社会福祉の専門知識や実践的な援助技術を学ぶために、高等学校で学ぶ基本的な科目の学力を有するだけでなく、コミュニケーション能力、協調性、豊かな人間性をそなえ、社会福祉に対して熱意・意欲をもって、社会福祉専門職を志す人を求めています。
- ・昨年度まで実施していた専門推薦入学試験、3年次編入学試験については、今年度以降の募集を停止することにした。
- ・学部拡充に伴い、昨年度の入学定員 30 名から 70 名に大幅に増員し募集を行った。その内訳は、一般推薦入学試験 20 名、一般選抜入学試験（前期日程）45 名、一般選抜入学試験（後期日程）5 名とした。
- ・一般推薦入学試験については、各高等学校からの推薦人員を 3 名に増員した（昨年度までは 2 名）。
- ・本年度の一般選抜入学試験（前期日程）については、課題図書感想文を課さず、当日までに内容理解を深めておくことに変更した。
- ・私費留学生入学試験については、志願者がおらず本年度は実施しなかった。

委員会活動年度報告書（入試委員会）

○今後の課題

- ・来年度の推薦入学試験については、これまでの県内推薦に加え、全国推薦の実施を予定している。
- ・来年度の入学者選抜試験実施方式については、今年度と同様とし、募集人員を推薦入学試験 30 名（県内推薦 20 名、全国推薦 10 名）、一般選抜入学試験（前期日程）35 名、一般選抜入学試験（後期日程）5 名に変更することを予定している。
- ・来年度入試の実施に際して、①募集人員の変更、②試験実施形態の変化（池キャンパスでの試験実施など）について、広報活動への協力、募集要項の修正、入試当日のスムーズな実施に向けた準備（先生方へのスケジュール確認・変更点の周知、面接室確保など）を着実に進めたい。
- ・今年度入試については、特に前期の合格者の入学未手続き数が多かったが、原因分析に努めたい。
- ・前期日程の課題図書については、感想文の提出を課さなかったが、その効果についても検討したい。
- ・定員増に伴い、県内はもちろん、四国・中国地方の受験生を確保するため、積極的な広報活動を行い、本学部のアドミッションポリシーに見合う志願者を獲得しなければならない。そのため入試形態・形式についても、総合的な点検を行いたい。

学生委員会

新藤 こずえ

○活動方針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動を展開している。

○活動内容

I. 相談活動

- ・ 保健師、心理カウンセラー、医師による相談窓口を定期的に開設し、相談の利用形態、利用時間、申し込み方法について説明を行い、定期の相談日は、掲示板などを利用して学生に周知した。
- ・ 随時、本学部学生委員と池保健室が連携し、本学部生の状況把握と情報共有を行った。
- ・ メンタルヘルス、悩み事などの相談は、基本的には学年担当教員およびゼミ担当教員が対応するが、学生委員会ではその情報を集約に努めた。

II. 経済的援助

- ・ 学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて情報提供及び手続き支援を行った。

III. 防犯活動

- ・ 犯罪の発生状況及び防犯ベルの貸し出しなど、防犯に係る情報提供および防犯講習会を実施した。
- ・ 本学部の学生が犯罪に巻き込まれたり、事故を起こしたりした場合には、学年担当教員もしくはゼミ担当教員を通じて学生委員会が情報を集約し、その情報に基づいて学生に対し注意喚起を行った。

IV. 健康の維持、向上

- ・ 年度当初に健康診断を実施した。
- ・ 配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査並びに予防接種、ツベルクリン反応検査、B型肝炎抗体検査並びにワクチン接種について情報提供を行った（保健室→学部学生委員→学年担当教員を通じて学生へ）。

V. 学生の自主的活動の支援

- ・ 社会福祉学部棟の掲示板などを活用し、学生生活にかかわる情報やボランティア活動に関する情報を随時、提供した。
- ・ 学生企画・主催のイベント（SAM：社福新生に捧ぐ愛のメッセージ、学年間交流会、オープンキャンパスの学生企画）において、サポートを行った。

委員会活動年度報告書（学生委員会）

○成果と課題

学生の福利厚生の上昇に関しては、メンタルヘルス上の課題を抱える学生の増加、学費等経済的支援に係る相談の増加、本学部生が巻き込まれる犯罪や事故が起こっており、このことへの組織的な対応が喫緊の課題である。

しかしながら、さしあたっては学生との関係づくりや学生に伝わりやすい情報提供・注意喚起を行うことが現実的対応となるであろう。

また、サークル活動や学年間交流会等、学生の自主的活動が活発化しており、それらの活動が学生の大学生活をより充実したものにしている。学生の主体性をより一層発揮できるような環境づくりが望まれる。

就職委員会

鈴木 孝典

○活動内容

（1）全学的取り組み

- ・未曾有の不況下における進路支援を図るため、「進路支援緊急対策」が図られた。具体の対策内容は、以下の通りである。

1. しらさぎ会との連携

- ① 進路支援に係る支援要請のための卒業生連絡票の配付（6,900通配付、103通回収）。そのうち、79名の卒業生より求人等の情報提供について了解を得た。
- ② しらさぎ会の後援を得て、「マイナビ就職EXPO四国（会場：サンメッセ香川）」への参加を目的とした「合同会社説明会しらさぎ会バスツア」を企画、開催した。
（開催日：1月16日、参加人数：24名）

2. 進路支援関連団体との情報交流

- ① 松山商工会議所との情報交換会の開催（11月18日）。
- ② 学生支援機構の説明会への参加
3. 実践WIN講座、マナー講座等、各種就職活動のための講座の開催

（2）社会福祉学部の取り組み

わくわくワークや3回生学年担当教員の協力を得て、以下の活動を行った。

1. 就職ガイダンス等

- ① 就活オリエンテーション（4月7日、4回生対象、参加者29名、）
- ② 就職ガイダンス「大切な一歩を踏み出すために」（4月13日、3回生対象、参加者：33名）
- ③ 就職ガイダンス「面接、小論文対策、内定後について」（5月20日、4回生対象、参加者：31名）
- ④ 就職ガイダンス「卒業生による社会福祉学部就職セミナー」（5月27日、3・4回生対象、参加者21名、講師：川島玲美氏（6期生、高知県）、津田佳奈氏（8期生、高知県）、上村絵里菜氏（6期生、近森病院）、浦中萌和氏（6期生、三愛病院）、西村英里子氏（7期生、（株）高知銀行）、福本圭氏（7期生、（株）よどや）
- ⑤ 就職ガイダンス「マナー講座」（6月25日、4回生対象、参加者35名）
- ⑥ 就職ガイダンス「4回生による社会福祉学部就職セミナー」（3月18日、3回生対象、講師：片山愛美氏、河口唯氏、小松春香氏、島崎沙織氏、森岡梨沙氏、柳瀬里織氏）

○進路の状況（対象者：33名）

1. 進学：なし
2. 就職希望なし：2名
3. 就職：31名

委員会活動年度報告書（就職委員会）

【 業種別内訳 】

- ① 公務員 : 6名（16.1%、福祉職：2名、一般職：3名、その他：1名）
- ② 社会福祉施設・機関 : 7名（22.5%、社会福祉協議会：3名、高齢者関連施設：2名、障害者関連施設：2名）
- ③ 医療機関 : 11名（22.5%、MSW：6名、PSW：5名）
- ④ 一般企業 : 6名（19.3%、金融：2名、保険：1名、通信：1名、小売：1名、サービス：1名）
- ⑤ 公的団体 : 1名（3.2%、一般社団法人）

○今後の課題

- ・長引く不況により、就職活動を取り巻く環境は依然として厳しい。とりわけ、一般企業と公務員の内定・就職状況は、厳しさを極めた。今後は、これまで以上にわくわくワークとの連携を密にとりながら、求人へのエントリーから内定獲得までの手厚い支援を実施する必要がある。
- ・保健医療福祉関連業種の内定状況は、例年同様、今年度についても堅調に推移した。しかし、保健医療福祉の分野も経済状況の影響を受けることから、学生に対する継続的な就職指導及び支援を要する。とくに、高知県内については、学生の就職希望が多い、医療機関におけるソーシャルワーカーが飽和状態にある。そのため、保健医療福祉を志望する学生の就業ニーズと保健医療福祉関連の求人が、マッチしない状況が増えつつある。このことから、職場開拓を含めた就職支援活動を保健医療福祉分野での就職を目指す学生についても、積極的に推し進めていく必要がある。

広報委員会

長澤 紀美子

○活動内容

1) 新「大学案内」の編集・製作

平成22年度よりの大学改編に伴い、従来の「大学案内」を刷新した。従来の大学案内の内容に準じた「ガイド編」と、学生・卒業生のコメントから成る新たな「ビジョン編」の二部構成とし、受験生に親しみやすく分かりやすい誌面作りを目指した。

社会福祉学部の紹介頁については、従来学部で作成していた学部パンフレット「こんにちは、社会福祉です」の内容を盛り込み、さらに介護福祉士養成課程の設置や新カリキュラムに関する情報を追加した。

2) オープンキャンパス

社会福祉学部では、次頁資料のとおり、学部説明会、教員・先輩（1回生中心）による相談室、体験授業（住友雄資教授）、学生シンポジウム等（2回生中心）のプログラムを実施した。

H21年度オープンキャンパスの参加者数

	全体	県内	県外
文化学部	78	62	16
健康栄養学科	158	84	74
永国寺	236	146	90
看護学部	176	152	24
社会福祉学部	82	59	23
池	258	211	47
計	494	357	137

※ 前年度と比べ、社会福祉学部での参加者数は増加した【平成20年度の参加者計431人中、社会福祉学部は47名（県内42・県外5）】。ただし、この数字には保護者数も含まれており、平成21年度は明らかに保護者の来学が増加した。この理由として、定員増の影響、PRの成果（全学での国内実績高校・全国高校生へのDM配布の増加や新聞広告）や高速道料金の影響等が考えられる。

3) 県教委によるオープンキャンパス

高知県の高等教育進学率の向上のため、県教育委員会が企画し、県内の高校2年生を対象としたオープンキャンパスを10月10日に実施した。社会福祉学部では学部説明会と体験授業（田中きよむ教授）を行った。高校への周知が短期間であったためか、参加者は全学計32名（社会福祉学部希望者は8名）に留まった。

4) 県外出身在校生の高校訪問

本年度からの全学企画として、夏休み期間中に県外（四国内）出身の2回生3名に出身高校を訪問させ、高校生への学部改編PRの協力を依頼した（この企画が好評であったため、社会福祉学部では、冬休みに学部総務委員会として、人数を拡充して実施した）。

○今後の課題

平成22年度よりの定員増と介護福祉士養成課程の創設、平成23年度よりの男女共学化に対応した広報活動を継続的に工夫して行う必要がある。今年度は、新たに学部改編のチラシ・ポスターを作成し、中国四国地方等を中心に全国の高校に配布した（学部総務委員会参照）。次年度以降も入試委員会・総務委員会と協力して、県内および県外の受験生を広く確保するために、広報活動の媒体および方法の検討を行いたい。

Welcome		社会福祉棟		'09 社会福祉学部 オープンキャンパス		
2009年8月1日		社会福祉棟		社会福祉学部のすべてがわかる！		
時間	共用棟 2階 大講義室	玄関	1-4階	101講義室	102講義室	202講義室
10時					先輩による 相談室 [10:00-11:00]	教員による 相談室 [10:00-11:00]
11時	社会福祉学部 学生シンポジウム [11:10-12:00]	受付	自由 見学		大好評 フリードリンク コーナー	先生にも
12時	昼休み 12:00~13:00 食堂で学生アトラクション					
13時	学部全体 説明会 [13:00-14:00]			学生撮影の学部 紹介ビデオを 上映しています (随時)		
14時				体験授業 [14:00~14:45]	大好評	先生にも オススメ
15時					先輩による 相談室 [14:45-15:45]	教員による 相談室 [14:45-15:45]
16時						

何でも学生、教員に聞いてくださいね。親切にお答えします。
永国寺キャンパスと池キャンパスの間をシャトルバスが運行します。

14:00~14:45 体験授業

社会福祉援助/福祉士がおこなう “相談援助”とは何か？

住友 雄資 教授

体
験
授
業

地域創成センター

田中 きよむ

（１）全学的活動

地域推進会議の委員として委員会に出席し、ニュースレターの編集などや高知女子大学と地域との連携案件について審議した。

（２）社会福祉学部での活動

○高校生のための公開講座

2009年8月3日(月)に、高校生のための公開講座を開催した。本講座は、高知県の高校生を対象に、社会福祉への理解を深めてもらうと同時に、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学ぶことのできる本学部を認識してもらう機会として、毎年開催している。本年も、高知県下の多くの高等学校と県外の高等学校からも応募があった。本学部教員による幅広い内容の講義を行うとともに、最終時間にはサロンと称し、入試、実習、資格取得など、高校生の疑問に教員が答え、参加高校生とぬくもりのある交流を行った。

○社会福祉学部リカレント教育講座

本講座は、1998年4月の社会福祉学部新設とともに、福祉の現場で活躍している社会福祉従事者を対象として開設され、現在に至っている。本年度は、新任教員中心の講師により、今日的な関心の高いテーマの講座が6回開講された。高知県下から様々な領域の医療福祉関係の専門職等の方々の応募があり、受講者延べ人数は484名で、リカレントの研修ニーズの高さが示された。(資料参照)

【資料】2009（平成21）年度 参加者数実績

講座名		参加者数
高校生のための公開講座		34名
社会福祉学部リカレント教育講座		
特別講演Ⅰ	発達障害の理解と支援	127名
特別講演Ⅱ	末期医療における治療行為の中止の問題を考える	71名
一般講演A	自分史分析入門	30名
一般講演B	社会保障の公共性と再構築	60名
一般講演C	今一度「うつ」を考える！	99名
一般講演D	「最期まで寄り添うケア」を考える	97名

委員会活動年度報告書（地域創成センター）

○健康長寿センター設置準備委員会

「日本一の健康長寿県づくりへの取り組み」として、平成22年度より、健康長寿研究・研修センターを設置されるのに伴い、平成21年度より看護学部、健康栄養学部（当時は生活科学部健康栄養学科）、社会福祉学部が参画する設立準備委員会が発足した。本学部では、宮上教授・後藤准教授が中心となり、公開講座「新時代を拓く介護福祉教育」を平成22年2月20日に開催し、39名の参加があった。（資料参照）

高校生のための 公開講座 2009

—Welcome to 高知女子大学社会福祉学部

高知女子大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です。
未来のプロフェッショナルを育てる高知女子大学の雰囲気
を、この夏、体験してみませんか？

社会福祉士合格率 **78.4%** (全国平均 29.1%)
精神保健福祉士合格率 **93.8%** (全国平均 61.7%)
就職率 **100%** (2008 年度卒業生)

2009年8月3日(月) 開講!

高知女子大学社会福祉学部 ●池キャンパス●

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>



ごあいさつ

社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学べる場としての高知女子大社会福祉学部の存在を認識していただくために、平成12年度より「高校生のための公開講座」を開講してまいりました。今年度も県内や県外の高校生を対象として開催いたします。

夏休みのひととき、本学部で普段行われているような講義を聴いたり、先生方に直接質問したりできますので、本学部の雰囲気に触れる絶好の機会となります。日ごろから社会福祉に関心を持たれている人だけでなく、たくさんの人に受講していただきたいと思います。

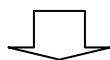
高校生の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

高知女子大学社会福祉学部

学部長 前山 智

高校生のための公開講座の受講申込方法

1. 高校生公開講座受講申込書（別紙）に必要事項をご記入ください（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）。

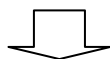


2. 高校の先生を通じて、FAXか郵送でお申し込みください。参加費は無料です。

お申込み締切は、7月17日（金）必着

【お申込み先】〒781-0111 高知市 池 2751-1 FAX：088-847-8672

高知女子大学社会福祉学部・高校生公開講座係



3. 使用教室の関係で、参加定員は30名とさせていただきます。受講希望者多数の場合は、学校・学年などを参考に人数を調整させていただくことがありますので、あらかじめご容赦ください（参加定員等の都合で参加いただけない場合、7月29日（水）までにお申込者様宛にご連絡いたします）。

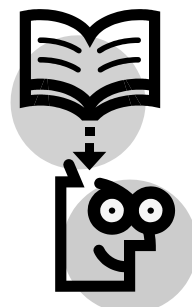
* 講座は高校2、3年生を対象です

第10回高校生のための公開講座
今年度の LINE-UP !

8月3日（月）	
1 時限	【池キャンパスへのアクセス】バス：大人片道 330 円（土佐電ドリームサービス） はりまや橋 高知医療センター 高知女子大学 9：15 → 9：34 → 9：36 （望海ヶ丘 行）
9：30～9：50	【受付】 ●於；社会福祉学部棟 1 階ロビー
9：50～	【開講式】 高知女子大学社会福祉学部の紹介 ●於；101 教室 （前山 智教授）
2 時限 10：20～11：50	【講座①】 みなさんの身近にある「子ども家庭福祉」 ●於；101 教室 （杉原 俊二教授）
昼休み	<u>生協売店利用可</u> または <u>弁当持参</u>
3 時限 12：35～14：05	【講座②】 「介護する・介護されるとは。」 ●於；204 観察室 （宮上 多加子教授・後藤 由美子准教授）
4 時限 14：15～15：45	【講座③】 ソーシャルワークとは ー生活のとらえ方を学ぶー ●於；101 教室 （西内 章准教授）
5 時限	【池キャンパスからのアクセス】バス：大人片道 330 円（土佐電ドリームサービス） 高知女子大学 高知医療センター はりまや橋 高知駅前 ※医療センター発 16：00 → 16：22 → 16：24

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。予めご承知おきください。

- ・ 昼食は、学内の生協売店で弁当等を購入いただけますが、ご持参いただいても結構です。
- ・ 8/1(土)は高知女子大学オープンキャンパスが開催されます（事前申込不要）。こちらにもぜひお出かけ下さい。





お申し込みお待ちしております！

高知女子大学社会福祉学部

●池キャンパス●

〒781-0111 高知県 高知市 池 2751-1

TEL : 088-847-8700 (代表)

FAX : 088-847-8672 (学部専用)

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

第10回高校生のための公開講座 受講申込書

2009年 月 日

(フリガナ)														
高等学校の 担当教員名														
(フリガナ)														
高等学校名														
高等学校の 所在地 等	〒													
	TEL							FAX						
受講希望者全員の氏名（フリガナ）・学年・利用予定交通手段														
No	お 名 前		学 年	利用予定 交通手段										
	(漢 字)	(フリガナ)												
1														
2														
3														
4														
5														
特記事項														

※本学部がこの申込書によって知り得た個人情報は、「第10回高校生のための公開講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切（必着）：2009年7月17日（金）

大学使用欄			
-------	--	--	--

高知女子大学社会福祉学部

FAX（学部専用）：088-847-8672



高知女子大学社会福祉学部 リカレント教育講座

— 知のフィールドへの招待 —



最新のおすすめ話題で
社会福祉の講義を
無料で受講できます！

2009年10月3日(土)より開講

Kochi Women's University Social Welfare



ごあいさつ

高知女子大学社会福祉学部

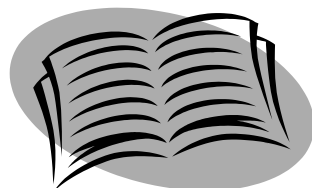
学部長 **前山 智**

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

高知女子大学社会福祉学部は、平成22年度より変わります。定員を現在の30名から70名に増員し、介護福祉士の国家資格取得コースを設置し、3つの福祉士国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に対応します。face-to-faceのきめ細やかな教育をおこなうために専任教員も随時増やしていく予定です。

今年度より、高知女子大学社会福祉学部へ新たに加わった先生方より、地域の保健・医療・福祉に携わるスタッフの方々や地域にお住まいの皆さまへの紹介を兼ねて、今年度のリカレント教育講座にて講演をいたします。

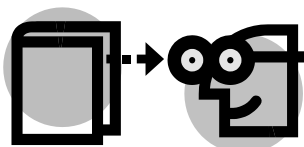
お気軽にご参加頂き、日頃の実践に多少なりともお役立て頂ければ幸いです。



今年のリカレント講座は、社会福祉学部の新任教員中心の魅力的な講座です！

高知女子大学社会福祉学部

リカレント教育講座担当 **田中 きよむ**







今年のリカレント講座は、今年4月から着任した新任教員中心に、「うつ」、「自分史分析」、介護や終末期医療、発達障害と支援、社会保障の動向など、人間と生活を見据えるうえで今日的に重要なテーマを用意しました。

日頃、福祉・医療分野で専門職として関わりをもたれているテーマや、広く県民の方々にとって関心をもたれているテーマに応じて、ぜひご参加いただければ幸いです。特別講演・一般講演とも、各担当講師が日頃の研究成果をふまえ、熱意をこめてお話ししますので、ご参加を心よりお待ちしております。

平成21年度リカレント教育講座

特別講演

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	定員
特別講演 I	 <h3 data-bbox="491 638 865 676">発達障害の理解と支援</h3> <p data-bbox="386 734 965 862">【講師：川崎 育郎(かわさき いくろう)】 高知女子大学名誉教授 (元 高知女子大学社会福祉学部 教授)</p> <p data-bbox="268 967 1085 1467">最近、発達障害という用語を新聞やテレビ放送などマスメディアにおいて見聞きすることが多くなったように思われます。児童相談活動においても、養育者から発達障害ではないだろうかという相談を受けることが多くあります。発達障害という用語は一般社会の中になんか浸透してきているように思われます。2004年には発達障害者支援法が制定されました。本講演では発達障害についての基本的なことについて概観し、改めて発達障害について考えてみたいと思います。そのことが、発達障害の理解と支援を考える場合の参考になればと思います。</p>  <div data-bbox="271 1579 1077 1971" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆プロフィール◆</p> <p>高知県立中央児童相談所で心理判定員として18年間児童の心理臨床に携わり、子どもたちのさまざまな相談を受ける。その間、判定班長、業務課長を務める。</p> <p>その後、高知女子大学保育短期大学部の教員を経て、高知女子大学社会福祉学部助教授、教授。2009年3月に定年退職。</p> <p>現在、高知女子大学名誉教授。専門は臨床心理学、障害児教育。臨床心理士。高知県スクールカウンセラー。</p> </div>	<p data-bbox="1120 1169 1289 1339">2010年 2/6(土) 15:00~17:00 (大講義室)</p>	<p data-bbox="1327 1236 1404 1272">200名</p>

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	定員
特別講演Ⅱ	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>末期医療における治療行為の中止の問題を考える</p> <p>治療行為の差し控え・中止の判断 - いったん装着した人工呼吸器は本当に心停止まで取り外すことができないのか 【慶應義塾大学大学院 准教授 前田 正一】</p> <p>◆コーディネーター／キレチャー◆ 患者に判断能力がない場合の対応 - 患者の意思の推定および代諾の許容性 【高知女子大学社会福祉学部 講師 上白木 悦子】</p> <p>今回の講演では、治療行為の差し控え・中止の判断について、その要件と手続きの問題について解説いたします。その際には、いったん装着した人工呼吸器は本当に心停止まで取り外すことができないのかといった、現場の方々の率直な疑問や、中止等の判断における、医療ソーシャルワーカーなど、コメディカルスタッフの役割などについても、講演を行う予定です。</p> <p style="text-align: right;">(コーディネーター：上白木 悦子)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆前田正一先生のご紹介◆ 九州大学大学院を修了後、九州大学、東京大学に所属され、本年4月からは、慶應義塾大学大学院にて、研究・教育を進めておられます。ご専門は、医療安全管理学・医療倫理学・研究倫理学です。 特に、医療事故問題、臨床倫理問題については、わが国を代表する研究者のお一人です。これまでに数多くの著書・論文を発表されるとともに、臨床系医学会における基調講演など、数多くの講演もなされております。また、関係する複数の公職にも就かれており、まさに、この分野のフロントランナーであり、オピニオンリーダーである方です。 【ご略歴】1972年 福岡県生まれ。九州大学大学院医学系研究科博士課程修了(博士(医学))。九州大学大学院医学研究院 医療ネットワーク学講座 助手。東京大学大学院医学系研究科 生命・医療倫理人材養成ユニット 講師。東京大学大学院医学系研究科 医療安全管理学講座 助教授・准教授(この間、東京大学医学部附属病院 患者相談・臨床倫理センター 副センター長を兼務)。現在、慶應義塾大学大学院 准教授(健康マネジメント研究科 医療マネジメント専攻)。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆コーディネーター（上白木 悦子）プロフィール◆ 福岡県立大学大学院 卒業(修士(福祉社会))。医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院 医療相談室勤務。九州大学大学院医学系学府 環境社会医学講座 博士課程。平成21年より現職。</p> </div> </div> </div> 		

平成 21 年度リカレント教育講座

一般講演

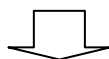
講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	定員
一般講演 A	<p style="text-align: center;">自分史分析入門 (教授 杉原 俊二)</p> <p>自分史を書く（さらに出版する）というのが静かなブームとなり、書店にも「自分史」に関する本が多く並んでおります。さて、「自分史を書く」というのは、どのような意味を持ち、どのような効果があるのでしょうか。その援助的効果に着目して発展させたのが、「自分史分析」です。自分史分析とは、自分の歴史を自分で表現し、自分で分析し、自分で理解し、自分で正当に評価をして自分を受容していくセルフヘルプ（セルフケア）の視点を持った援助方法です（「自分史分析」は杉原の造語）。 その自分史分析の方法を学びます。</p> <p>◆プロフィール◆ 1963 年 広島県生まれ。四国学院大学社会福祉学科、大阪市立大学大学院(臨床心理学研究室)、鳴門教育大学大学院(障害児教育専攻)に在学。また大阪教育大学、関西学院大学、神戸ルーテル神学校などで臨床の指導を受ける。1999 年香川医科大学大学院博士課程修了。博士(医学) 大学在学中より、総合病院精神科でソーシャルワーカーとして働き始め、以後、保健所、民間カウンセリング会社、研究所、大学学生相談室などで援助職として働く。また、短期大学(通信制)、専門学校で講師を務め、1993 年より瀬戸内短期大学専任講師、2000 年より吉備国際大学助教授(2006 年教授)となり、2009 年より現職。</p>	<p style="text-align: center;">10/3(土) 13:30~15:30 (大講義室)</p>	<p style="text-align: center;">200 名</p>
一般講演 B	<p style="text-align: center;">社会保障の公共性と再構築 (教授 田中 きよむ)</p> <p>社会保障制度の持続可能性の観点から、医療、介護、障害者福祉、保育、年金、生活保護などの各分野の制度改革が進められてきました。それらの制度改革は、高齢者、障害者、児童の生活にとってどのような意味をもつのでしょうか。 社会保障制度改革各分野の現段階の特徴と構造を明らかにし、今後の課題と方向を考えます。</p>	<p style="text-align: center;">10/17(土) 13:30~15:30 (大講義室)</p>	<p style="text-align: center;">200 名</p>

委員会活動年度報告書（地域創成センター）

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	定員
一般講演C	<p style="text-align: center;">今一度「うつ」を考える！ (教授 林 美朗)</p> <p>自殺対策や職場のメンタルヘルス・不適応対策などに「うつ」ということがよく言われる。確かに「うつ状態」の人は多いだろうが、それと「うつ病」は違うと考える。そこで「うつ状態」と「うつ病」の違い、「うつ」の鑑別診断などにつき、例を出しながら今一度考えてみようとするものである。</p> <p>◆プロフィール◆ 北海道旭川市生まれ。昭和56年、北海道大学文学部卒業。60年、同大学院文学研究科博士後期課程中退。平成3年、富山医科薬科大学医学部卒業。4年、北海道大学医学部精神医学教室入局。10年、精神保健指定医。12年、岐阜大学医学部神経精神医学教室入局。13年、医学博士・岐阜大学医学部助手。14年、文学博士・同附属病院併任講師・神経科精神科病棟医長。在家のまま受戒得度、僧号朗月(ろうげつ)・宝雲山玉龍寺在家権大僧都(ごんだいそうず)職。平成15年より東海女子大学人間関係学部助教授・岐阜大学医学部非常勤講師・日本病跡学会理事。平成17年より教授・浅井学園大学非常勤講師。平成19年より金城学院大学非常勤講師。平成20年より岐阜県立多治見病院精神科部長。平成21年より現職。 専 門: 病跡学、表現精神病理学、芸術精神医学 日本(古典)文学、(禅)仏教学</p>	<p style="text-align: center;">11/7(土) 13:30~15:30 (大講義室)</p>	<p style="text-align: center;">200名</p>
一般講演D	<p style="text-align: center;">「最期まで寄り添うケア」を考える (准教授 後藤 由美子)</p> <p>私たちは、住み慣れた場所で自分らしい最期の時を迎えたいと願っています。しかし、その願いはなかなか叶わないのが現実です。介護サービスを提供する施設でさえも多くの高齢者は病院で死を迎えています。介護保険制度改正により「看取り加算」が新たに設定されました。どうすれば望む最期を迎えられるのか、高齢者の尊厳のある最期を支援するケアのあり方について様々な視点から考えたいと思います。</p> <p>◆プロフィール◆ 家族の認知症介護等が介護福祉に関心を持った動機。介護福祉士養成教員として専門学校、短期大学、大学で勤務。研究テーマは、介護人材の養成と介護サービスの質の確保です。介護職の人材不足が社会問題となっている中で、我が国は看護・介護人材を海外に解放しました。現在、インドネシア、フィリピンから約500名の人たちが日本で就労または研修を受けています。言葉や文化の違いから生まれる問題等を調査分析し、介護の質が担保される養成に関する検討を行っています。 認知症ケア学会評議員。</p>	<p style="text-align: center;">11/28(土) 13:30~15:30 (101 講義室)</p>	<p style="text-align: center;">50名</p>

リカレント教育講座の受講申込方法

リカレント教育講座申込書（別紙）に必要事項をご記入ください
（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）



申込書を FAX または郵送でお申し込みください

お申込締切は、各講座実施日の1週間前まで

【お申込み先】

<郵送> 〒781-0111 高知市池 2751-1
高知女子大学社会福祉学部・リカレント教育講座 係

<FAX> 088-847-8672



当日、講座の開催会場へ直接お越しください。



- いずれの講座も、関心がある方ならどなたでも参加できます。
- 複数の講座を併修できます。申込者がいない場合には当該講座は開講しません。
- 特別講演 I・II および一般講演 A・B・Cは高知女子大学池キャンパス共用棟2階大講義室で開催します。一般講演 Dは高知女子大学池キャンパス社会福祉学部棟で開催します。



■JR 高知駅から／車で約 20 分

■はりまや橋から／バスで約 20 分

高知女子大学社会福祉学部

Kochi Women's University

●池キャンパス●

〒781-0111 高知県 高知市 池 2751-1

TEL : 088-847-8700 (代表) FAX : 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

平成21年度リカレント教育講座受講申込書

2009年 月 日

(フリガナ)											
氏名											
連絡先 □勤務先 □ご自宅	〒										
	TEL						FAX				
	E-MAIL										
	勤務先の名称										
職 種											
※ 受講希望講座に ○ をつけてください。 ☞ 複数講演の選択（併修）可能 ↓ （講座名および実施日）											
特別講演	発達障害の理解と支援【H22年2月6日(土)】										
	尊厳死：末期医療における治療行為の中止の問題を考える【H21年11月21日(土)】										
一般講演	自分史分析入門【H21年10月3日(土)】										
	社会保障の公共性と再構築【H21年10月17日(土)】										
	今一度「うつ」を考える！【H21年11月7日(土)】										
	「最期まで寄り添うケア」を考える【H21年11月28日(土)】										
本学部卒業生の場合記入		高知女子大学社会福祉学部 第 期生									
特記事項											
これまでの受講経験		有 ・ 無（今回が初めて）									

※ 申込者がいない場合は、その当該講座は開講いたしません。

※ この申込書によって知り得た個人情報は、「平成21年度リカレント教育講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切日：各講座実施日の1週間前まで

☞ 申込書が足りない場合はコピーしてお使いいただくか、高知女子大学社会福祉学部のホームページよりダウンロードしてください。

平成21年度リカレント教育講座受講申込書
(裏面に必要事項をご記入し、FAXか郵送でお申込下さい)

【お申込み先】

<郵送の場合>

〒781-0111 高知市 池 2751-1

高知女子大学社会福祉学部・リカレント教育講座係

<FAXの場合>

FAX 番号：088-847-8672

【申込締切日】

各講座実施日の1週間前まで

健康長寿センター設立準備室事業 報告

1. 開催プログラム

日時 平成22年2月20日(土) 13:00～16:00
場所 看護福祉棟 2階 講義室2

テーマ「新時代を拓く介護福祉教育」

第一部 公開講座（13:00～15:00）

講演1

「これからの介護福祉士の役割と日本介護福祉士会の取り組み」

講師 日本介護福祉士会 会長 石橋 真二氏
社会福祉法人 旭川荘 顧問

講演2

「高知県における介護の現状と課題」

講師 高知県介護福祉士会 会長 佐井 健二氏
社会福祉法人 土佐香美福祉会
特別養護老人ホームウエルプラザ洋寿荘 副施設長

講演3

「本学における介護福祉士養成教育の特徴」

講師 高知女子大学社会福祉学部 学部長 前山 智教授
高知女子大学社会福祉学部 宮上 多加子教授

第二部 看護福祉棟の見学（15:00～16:00）
（希望者のみ）

2. 公開講座の概要

別紙参照

3. 参加者 39名

（内訳）

一般	6名
高校生	4名
女子大生	27名
学部教員	2名
看護福祉棟見学希望者	6名



4. 事業担当者 宮上多加子、後藤由美子

公開講座「新時代を拓く介護福祉教育」講演の概要

講演1「これからの介護福祉士の役割と日本介護福祉士会の取り組み」

講師 石橋 真二氏（日本介護福祉士会 会長）

少子高齢化が進展する中で介護人材不足が深刻化している。離職率が高く、潜在的有資格者は約4割（平成17年9月末時点）を超えている。福祉・介護人材の安定的確保のため平成20年度から、処遇改善等による定着の促進、多様な人材の参入促進を予算化し、多年度にわたって総合的な対策が進められている。

多様な人材の参入促進の対策は、福祉・介護の仕事に関する相談助言や潜在有資格者の再就業を支援する研修の実施、離職者等に対する社会福祉施設等への職業訓練委託事業などがある。処遇改善等を通じた定着促進では、介護報酬の3%アップや介護福祉機器導入費用への助成、介護職員の処遇改善に関する取り組みに対する助成などの対策が講じられている。また、介護福祉士・社会福祉士養成施設の入学者に対して修学資金の貸付制度を拡充し、福祉・介護の仕事に5年間従事した場合は返還が免除されるなど緊急対策として実施されている。

日本介護福祉士会では、資格取得後のキャリアアップを目的とした生涯研修制度により資質の向上や行政へ意見・提言をするなど職能団体としての活動を行っている。

講演2「高知県の介護の現状と課題」

講師 佐井 健二（高知県介護福祉士会 会長）

高知県の高齢化問題・介護の現状と課題は、10年先の日本の課題であるといえる。地域の担い手の確保が困難という現状がある。療養型医療施設のベッド数が減少へと向かうなかで介護問題は深刻化している。中山間地域という地域性に基づいた介護サービスをさらに充実させていく対策が必要である。特別養護老人ホームについてもケアの質が高められるようユニット化を進めていくことも重要であると考えている。昨年発表された高齢者虐待調査では、高知県では経済的虐待が最も多い。高知県介護福祉士会として関係機関との連携をとりながら今後も介護福祉に研鑽を積んでいきたいと考えている。

講演3「本学における介護福祉士養成教育の特徴」

講師 前山 智 宮上 多加子（高知女子大学社会福祉学部）

平成23年度から県立大学へと名称が変わり、男女共学になる。池キャンパスは、「日本一の健康長寿県づくりの拠点」、永国寺キャンパスは「社会貢献する拠点」へと高知女子大学が大きな転換期を迎え、さらに充実した教育を行っていくことになる。新年度は、学部再編と同時に池キャンパスが整備され、社会福祉学部は定員が30名から70名と倍増する。そして介護福祉士養成がスタートすることによって三福祉士を養成する学部となる。「社会福祉士」を基盤として、「介護福祉士」あるいは「精神保健福祉士」のいずれかを加えた二つの国家試験受験資格を取得することができる。

介護福祉士養成カリキュラムは、平成21年度より改正され、本学では開設当初より新カリキュラムによる養成教育であり、国家試験受験が課せられることになる。

本学の介護福祉教育がめざす人材像として、「介護現場のリーダー的な人材」、「相談援助能力を持つ介護福祉人材」、「介護福祉の人材養成に貢献できる人材」、「介護福祉研究に主体的に取り組む人材」を挙げている。4年制大学としての教養教育と社会福祉学部としてのケアワーク教育及びソーシャルワーク教育の一連の教育を通して、社会が求める介護福祉人材の養成を目指すことになる。

（文責 後藤由美子）

公開講座 新時代を拓く介護福祉教育

高知女子大学社会福祉学部は、社会福祉士養成課程、精神保健福祉士養成課程に加え、平成 22 年度より介護福祉士養成課程を導入します。

については、県内の保健・医療・福祉・教育等の関係施設・機関の皆様に対して、大学における教育課程についての理解を深めていただくとともに、より一層の地域の社会福祉施設・機関との連携強化を図っていくことを目的に公開講座を開催します。

また、今回初めて、池キャンパスに新たに建てました校舎（看護福祉棟）の見学も併せて行います。

日時：平成 22 年 2 月 20 日 13：00～16：00

会場：高知女子大学池キャンパス
看護福祉棟 講義室 2

概要：

①公開講座（13：00～15：00）

日本介護福祉会 会長 石橋 真二氏

「これからの介護福祉士の役割と日本介護福祉士会の取り組み」

高知介護福祉士会 会長 佐井 健二氏

「高知県における介護の現状と課題」

高知女子大学社会福祉学部 学部長 前山 智 教授

「本学における介護福祉士養成教育の特徴」

②新校舎（看護福祉棟）の見学（15：00～16：00）



実習委員会

西内 章

1. 活動方針

平成 21 年度新入生より、社会福祉士の新カリキュラムが開始された。

旧カリキュラムでは、社会福祉士指定科目に対応する科目が「社会福祉ふれあい実習」（1 単位）、「社会福祉現場実習Ⅰ」（1 単位）「社会福祉現場実習Ⅱ」（機関・3 単位）、「社会福祉現場実習Ⅲ」（施設・3 単位）、精神保健福祉士指定科目に対応するのが、「精神保健福祉ふれあい実習」（1 単位）、「精神保健福祉援助実習」（7 単位）である。このうち、「社会福祉現場実習Ⅰ」（1 単位）「社会福祉現場実習Ⅱ」（機関・3 単位）、「社会福祉現場実習Ⅲ」（施設・3 単位）が、新カリキュラムでは、「相談援助実習指導」（3 単位）、「相談援助実習」（4 単位）である。なお、配属実習の事後学習については、「相談援助演習」で扱うことになっている。

また精神保健福祉援助実習は、3 年次に事前学習、4 年次に配属実習と事後学習を実施している。

平成21年度の活動方針は、実習担当教員の増員に伴う準備作業を進めること、22年度から始まる介護福祉士養成のカリキュラムにあわせ、実習委員会組織の見直しであった。

2. 活動内容

今年度も「社会福祉実習のてびき 2008」をもとに授業（事前学習、配属実習、事後学習）と実習委託先との連絡・調整作業を行った。

社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲの配属実習は、1 人あたり24日（180時間）であり、34名が実習を行った。内訳（のべ人数）は、福祉事務所2名、市町村社会福祉協議会9名、病院（精神科除く）15名、特別養護老人ホーム5名、知的障害者通所更生施設・相談支援事業・児童デイサービス5名、児童養護施設6名、児童相談所4名、身体障害者福祉センター・身体障害者通所授産所3名、介護老人保健施設2名、地域包括支援センター2名、肢体不自由児施設1名、救護施設1名、児童自立支援施設1名、情緒障害児短期治療施設1名、生活介護事業所2名、知的障害者更生相談所1名、知的障害者入所更生施設1名、養護老人ホーム1名であった。

精神保健福祉援助実習の配属実習も、1 人あたり24日（180時間）であり、17名が実習を行った。その内訳は、精神科病院17名、障害福祉サービス事業所3名、精神障害者通所授産施設2名、精神保健福祉センター1名であった。

※なお、上述の実習生の人数については、12日（90 時間）を2回実施したものについては、それぞれの実習先をカウントしており、24日（180時間）1回実施したものについてもそれを1カ所として算出している。

委員会活動年度報告書（実習委員会）

3. 成果と課題

実習に関する報告は、『2009年度 社会福祉実習報告書（絆）』（2010年3月刊行）に記している。本学では実習報告書のタイトルは、編集委員を中心にして学生が命名しており、2009年度のタイトルは「絆」である。

また、2009年度は、3月9日に社会福祉実習連絡協議会を実施し、学生の実習内容の発表と、実習先の実習担当者と実習担当教員の懇談会を行い2009年度の振り返りと2010年度の実習方法の検討・確認を行った。

今後の課題は、2010年度から始まる介護福祉士のカリキュラムへの対応と、社会福祉士、精神保健福祉士のカリキュラムに対する新たな実習体制づくり、実習委員会組織の見直しである。

総務・予算委員会

長澤 紀美子

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

- ① 教授会の資料準備及び運営：議題・資料の整理、議事メモの作成等
- ② 社会福祉学部棟改修工事、看護福祉棟新築工事に係わる業務全般
総務委員会の中に引越WG（ワーキンググループ）を設置した。円滑に改修・新築工事およびそれに伴う引越や備品の整備が実施されるよう、引越・改修業者との連絡調整と学部教職員・学生への伝達、新旧備品のリスト作成と整理（高知女子大学保育短期大学部から承継した保育図書資料の整理を含む）、施設の整備・清掃等を、引越WGを中心に他の教員・学生の協力をえて、おこなった。
- ③ 高校生見学に対応
平成21年度は、高知県内4校、県外1校が見学を訪れ、学部の説明を行った。
- ③ 学部日常事務の対応
助教および非常勤事務職員の協力をえて、寄贈資料、手紙の登録、整理、回覧などの仕事に対応した。
- ④ 平成20年度『社会福祉学部報』の編集・発行
平成20(2008)年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）を冊子媒体500部および電子媒体（CD-R）30部を作成した。
- ⑤ 学部再編チラシ・ポスター『社会福祉学部は変わります！』（第2版）の発行と配布と県外在校生の出身高校訪問
平成22年度からの学部拡充を周知するため、「社会福祉学部は変わります」のチラシ第2版（A4版チラシ3000部・A3版ポスター2000部）を作成し、中四国を中心とした高校に配布した。さらに、冬休み期間中に県外出身の1～3年生20名に出身高校を訪問させ、高校生へのPR活動に協力を依頼した。
- ⑥ 学部内備品の整備
学部教職員が共用で使用するパソコン（ノートパソコン2台）を導入した。
- ⑦ 優先度の高い図書の配置
図書委員と協力し、学部学生教育費、大学院(M)学生教育費、図書館管理費等により、国家試験対策図書、シリーズ本、福祉関係白書等、DVD・ビデオで教員・学生の研究・教育に資する本を教員の推薦により選び、図書費の有効活用を図った。

2. 成果と課題

例年とは異なり、今年度は、学部改編に係わる広報活動並びに学部棟改修・新看護福祉棟新設とそれに伴う備品の整備等、改編に係わる業務が総務・予算委員会業務の中心であった。改修工事の遅れにより、引越や施設・備品の整備に短期間に対処しなければならなかったが、非常勤事務職員・助教を始めとした引越WGおよび教員・学生の尽力により、無事に全ての準備を終えて新学期を迎えることができた。

来年度以降の継続的な課題として、定員拡充に伴う備品の計画的な整備、男女共学化および今後の法人化を踏まえた施設・備品の整備や学部体制の強化が挙げられる。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士

国家試験に向けての取り組み

4回生になって

3回生の終わり、国試を乗り越え、卒業を控えた4回生から国試ガイダンスを受けました。先輩たちの話では夏から秋にかけて本格的にはじめたという人が多く、私も4回生の夏ころは必死に勉強しているのかなとぼんやり考えていました。

しかし、現実は全く思うようにいきませんでした。

あっという間に12月

私が勉強を始めたのは12月。就職活動も一度終わらせ、卒業論文の完成のめどもついたため、ようやく新藤先生のところへ行き、国家試験までどのように勉強していくのかを相談しました。正直、この時点まで、私はほとんど国家試験の勉強をした記憶がありません！！

新藤先生と相談して、1日どのくらい問題（過去問）を解くのかのノルマとどのくらいの時間を勉強に当てられるのかを考え予定を組みました。私は朝型だったため、朝5時に起きて1時間半勉強して、学校に行き、国家試験対策を受けた後、ゼミ室や図書館で勉強し、なんとかノルマをこなすようにしました。正直かなりしんどかったです！！

いよいよ1月

1月に入り、お正月は勉強を少し休憩し、リフレッシュしました！そして、1月6日～8日にかけて国家試験合宿にいきました。合宿では今まで解いた過去問でわかりにくかったところをまとめたり、覚えにくいところはみんなで語呂を作ったりして勉強しました。合宿はみんながいるため、一緒にがんばれるし、よい刺激になってとてもよかったです。

ラストスパート3週間前

しかし、今振り返ると、本当の本気で勉強というものに向き合ったのは合宿後だったと思います（もう試験当日まで3週間くらいしかなかったですが・・・）。合宿の後、私は毎日学校に行くことにしました。とりあえず、学校に行きました。やる気のない日もいきました。この頃によりやく自分のスタイルが出来てきたと思います。

朝は図書館の開く9時前に学校に行くようにし、図書館が開くと、いつもの席に行き、とにかく机に向かいました。そして、夕方5時か6時頃に帰宅すると、家ではほとんど勉強はしませんでした。バイトも国家試験ぎりぎりまでしていたし、家では勉強できないタイプだったので、お風呂に入りながら、自分で作った単語帳で問題を解くくらいでした。

学生を中心とした活動（国家試験に向けての取り組み）

本番 1 週間前

国家試験 1 週間前になると緊張で勉強が手につかなくなると新藤先生が言っていたので、学校での勉強後、友人たちとファミレスに集まり、わからないところを教えあったり、問題をだしあったりして、気持ちを高く持つようにがんばりました。

後輩のみなさんへ

国家試験は一人一人受けて、一人一人に結果がでます。しかし、ひとりではないです。一緒にがんばった友人や応援してくれた友人、先生、後輩、家族。みんながいたからこそ、できることだと思います。

勉強していたら誰にでも、不安や焦りは襲ってきます。試験中も襲ってきます。そんな時は、深呼吸してみてください。きっと、自分だけではないから、みんな一緒です！！

これから試験に向かうみなさん。がむしゃらに！ただひたすらに！がんばろう！！

付 記：

2009年度国家試験合格率	本 学	全 国
社会福祉士（第22回）	73.3%	平均 27.5%
	第 12 位	200 校中 ^{※1}
精神保健福祉士（第12回）	88.2%	平均 63.3%
	第 25 位	111 校中 ^{※2}

※1 10名以上受験した福祉系大学等 199校中

※2 10名以上受験した福祉系大学等 110校中

グローカルクラブ

私たちグローカルクラブは、「国際交流」「地域交流」「ボランティア」を三本柱として活動しているサークルです。三里防災フェアなどの地域のイベントやボランティアなどに参加していますが、グローカルクラブの活動の中心は、よさこいチーム「グローカルクラブ Japarean（高知女子大学）」です。このチームは、サークルのメンバーが中心となり、Japareanのスタッフとしてチームを運営していきます。今年も踊りや地方車、チーム編成までを学生たちで準備し、多くの方の力を借りて、夏に行われる“よさこい祭り”に参加しました。

今年 Japarean の復活の年でもありました。1年活動を休止していましたが、今年は9名の韓国学生を迎え、また高知女子大学の学生だけでなく、リピーターや他大学の学生、社会人の踊り子が集まりました。チーム復活の年としてふさわしい、元気いっぱいの踊り子と素晴らしいスタッフに恵まれ、とてもにぎやかな年になりました。そして、どのチームに負けなくらいの笑顔とあふれるほどの想いで本祭2日間踊り切り、忘れられない夏の思い出を作ることができました。

チームを作ることはスタッフ一人一人の力が重要で、誰一人欠けることはできないものでした。メンバーを信頼すること、そしてチームのために自分は何ができるのか、日々考えて行動していたように思います。このチームを作ったことで私は、多くの方々に出会い、支えや助けをもらい、人との関わり大切さに気付かされました。そして、チームとしての誇りも感じることもできました。学生生活でなかなか経験できない役を担え、自分自身成長することができ大変嬉しく思っています。今後も、このチームが人と人との“つながり”を大切に活動をしていくことを期待しています。

最後に、いつもグローカルクラブの活動にご理解とご支援を頂き、大変感謝しております。これからも高知女子大学の一サークルとして、大学や地域に根ざした活動を展開していきたいと思っております。今後ともご支援ご指導のほどよろしくお願い致します。



太鼓部

太鼓部は現在2回生から4回生の計18名で活動しています。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。昨年度は、入学式・学祭・卒業式の学校行事に参加して太鼓を演奏しました。また三里祭りに参加したり、病院に訪問したりして太鼓の演奏を通して地域の人たちや病院の患者さんたちと交流しました。

一つの曲を仕上げるには、たくさん練習を積み重ねなければなりません。しかし、そうやって一つの目標に向かって練習していくうちに部員同士の絆が深まっていくのが感じられます。現に太鼓部は先輩・後輩関係なく仲がよいです。だからこそ、一つの曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、さらに地域とのつながりも増えるので得るものがとても多いと思います。

また、太鼓部では地域との交流も兼ねて梶原でお米作りもしています。田植えや稲刈りなどの時期には梶原に行って作業をしています。そして収穫したお米は、4回生を送る会などでおにぎりにして食べたりしています。普段触れることの少ない自然の中で、あまり体験することのない農作業をすることはとてもいい経験になっています。また田んぼの担当農家さんや地域の人との交流も楽しみの一つです。

このように太鼓部では、楽しく太鼓を叩くのはもちろん、様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができると思います。さらにそれらの経験は、大学を卒業した後も役に立つのではないかと思います。

太鼓部の良さをより多くの人に知ってもらい、これからもみんなでがんばっていききたいです。



池手話サークル

こんにちは！池手話サークルです。私たちは三回生6人、二回生2人、一回生7人、編入生1人の計16人で活動しています。活動日は毎週1回の授業の空き時間に社会福祉学部棟の一室で本やDVDを参考にしながらみんなで楽しく手話を学んでいます。

去年は、医療センターの小児病棟にて手話コーラスの発表をしました。文字通り、手話で歌を歌います。小さい子どもたち向けに「アンパンマン」や「となりのトトロ」などを手話で発表しました。小さい子ども向けに歌だけでなく、プログラム自体もわかりやすい形で提供することの難しさを感じました。小児病棟の看護師さんたちにも色々ご助言をいただいたので、今後はそれを活かして活動に取り組みたいです。

また学祭にも参加し、「LOVE LOVE LOVE」などを手話で発表しました。学祭に向けて、みんなで準備したことがとてもよい思い出になっています。手話コーラスはやってみるととても楽しいので、ぜひ体験してみたいです。

その他の活動として、手話サークルの青年部との交流会への参加などがあります。去年はあまり交流をもつことができませんでした。来年度は活動の範囲を広げて積極的に取り組むことができればいいなと思っています。

手話は難しそうというイメージがあるかもしれませんが、それぞれの手話には由来があり、楽しく覚えることができます。これからも楽しく手話について勉強していきたいと思っていますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。



私たちは日本で使われなくなった車いすを集め、旅行者に手荷物として運んでもらうという方法（輸送費がかかりません）で発展途上国に車いすをとばしています。2006年にサークルを結成して以来計12台の車いすをとばしました。

2009年度は、高知福祉機器店でのパネル展示、ボランティアフェスティバルでの出張メンテナンス、NPOフォーラムでの活動紹介を行いました。広報活動以外にも、発展途上国についての勉強会や実際に発展途上国の料理を自分たちで作って食べるエスニック料理会も行いました。また、新たな活動として高知大学・高知工科大学・高知女子大学の国際協力系サークルの「Kレボリューション」というつながりをつくり、5月末に合宿を行いました。この合宿では、各団体についての活動紹介やフェアトレードに関するワークショップなど国際協力に関する知識を増やすことができました。

現在部員は社会福祉学部4回生3名、3回生4名、2回生2名、看護学部4回生1名の10名で月曜4限に活動しています。今年は昨年よりも充実した活動ができるよう楽しんでやっていきたいと思えます。



ハモ☆イケ

ハモ☆イケとは、高知医療センターの「ハーモニーこうち」でボランティアをしているイケてる池キャンパスの女の子が和気あいあいと活動しているサークルです！

メンバーは、社会福祉学部の学生で構成されており、主に授業の空き時間や放課後を使って、のびのびと活動しています☆

ボランティア内容は

- * 入院案内…患者さんをお部屋まで案内します(月・火・木 13:00～14:00)
- * 図書サービス(水・木 13:30～15:30)
- * 小児入院フロアでの見守り(毎日 お昼中心に随時)
- * 花壇の手入れや掃除など

ハーモニーこうちのボランティアさんと一緒に活動していますが、皆さんとても親切で、私たち女子大生がボランティアに行くと、ボランティア後にお茶やおやつを出してくれたりしなど、とてもかわいがってくれます。

しかし、年々ボランティアさんの人数も減ってきており、入院患者さんの案内が週に1回しかできなくなっているなど、たくさん問題も抱えています。ハモ☆イケを立ち上げたきっかけも、「社会福祉学部のサークルとして、ハーモニーこうちを盛り上げていってくれんかな？」というボランティアさんの声でした。お隣さん同士、助け合いながら、患者さんやご家族の方たちを支えていこうじゃないか！そんな決意のもと、立ち上げたサークルです。このサークルが代々、社会福祉学部の後輩たちに引き継がれていけばいいなあと思っています。

去年は、少しでも継続した活動ができるようにと、月ごとにシフトを決め毎日必ず誰かがボランティアに行くという体制をつくりました。

しかし新型インフルエンザの影響などもあり、実際にボランティア活動ができた期間はとても短いものでした。また、シフトを決めることで「ボランティア」が「義務的なもの」となってしまったところは反省すべき点だと考えています。

今年の3月には、女子大にある児童書を医療センターに寄贈するという作業を、ハモ☆イケが中心となって行いました。300冊ほどの本を1冊1冊手直しする作業は大変でしたが、このような形でも、医療センターのお手伝いできてよかったと思います。

これらのボランティア活動に、3月27日に医療センターで行われたハーモニーこうちボランティア表彰式で、「いけいけ若さで功労賞」をいただきました。

ハモ☆イケが発足して3年目になりますが、未だ試行錯誤を重ねながらの活動です。これからの継続したボランティアができるよう、皆で話し合い、協力しながら、よりよい方向へ向かっていけたらと思っています。

援農隊

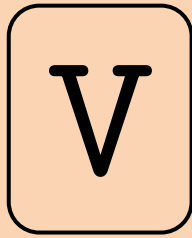
こんにちは！援農隊サークルです。今年で結成して2年目に突入しました。4回生8人、3回生11人、計19人で活動しています。援農隊は、「農家・農業・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトをもち、農業や農家、地域にかかわってきました。

去年は、安芸市の入荷内・畑山地区と物部の大柵地区でゆずの収穫を行いました。物部の大柵地区でゆず取りをするのは初めてでした。ゆずの収穫では、ゆずを取る他にゆずの原液を入れるビンを洗ったり、その土地の郷土料理を、農家の方と一緒に作ったりしました。

これからは、援農隊単体のサークルとして活動していくことになりました。昨年、大柵地区でのゆず取りが行えたことで、援農隊の活動地域が広がりました。まだゆず取りしか行えていないので、今後他の農業活動にもその地域の方と一緒に参加できればいいと思います。

普段触れることのない大自然の中で、農家の方たちや地域の方の優しさに癒されながら楽しく活動しています☆





卒業論文題目一覧（2009年度）

卒業論文題目一覧表（2009年度）

平成21年度 社会福祉学部社会福祉学科 卒業論文題目

教員氏名	題 目
杉原 俊二	虐待を受けた子どもの行動特徴とそれに対する職員の支援のあり方 —児童養護施設における聞き取り調査—
	自閉症のある子どもと養育者の求める支援 —子どもと養育者の抱える不安と困難に着目して—
	子育てサークルにおける子育て支援 —子育てサークルがもたらす効果についての—考察—
	「関わりの難しい保護者」に対する乳児院職員の対応と考え方
	自閉症のある児童の養育者の子育て負担と地域支援 —児童デイサービスに焦点を当てて—
	学童期における異年齢での関わりについての—考察— —放課後児童クラブを対象にして—
住友 雄資	精神障害者とその家族との関係性変化に関する研究 —良好な関係を築く要因に焦点を当てて—
田中 きよむ	知的障害者の結婚を阻害する内的要因についての—考察— —グループホーム入所者に着目して—
	特別支援学校寄宿舎の諸機能に関する—考察—
	社会的ひきこもり支援に関する—考察— ～佐川町の地域支援ネットワークを事例として～
宮上 多加子	認知症介護経験のある電話相談員の意識に関する研究 —X県「コールセンター・家族の会」相談員を対象に—
	認知症高齢者の感情表出に関する研究 —介護者の視点に着目して—
	高齢男性の社会参加とその支援方法に関する研究
	認知症高齢者グループホームにおける終末期ケアに関する研究 —職員の意識に着目して—
	家族介護から介護保険制度利用への移行過程に関する研究 —女性介護者の続柄に注目して—

卒業論文題目一覧表（2009年度）

平成21年度 社会福祉学部社会福祉学科 卒業論文題目

教員氏名	題 目
長澤 紀美子	子育て支援サークルへの参加が母親にもたらす効果に関する研究
	高齢者の外出への働きかけにおける工夫について —先行文献における事例の分析を通して—
	夫婦共通の趣味を持つことが定年退職後の生活適応に与える影響
西内 章	特別養護老人ホームにおける介護職員のストレスとストレス対処の研究
	中山間地域における自主防災組織活動の特性に関する研究
	在宅高齢者介護における主介護者の QOL に関する研究 —Zarit 介護負担尺度日本語版 (J-ZBI) と PGC モラルスケールを用いて—
	不登校児童生徒への支援体制におけるスクールソーシャルワーカーの役割
	市街地に居住する一人暮らし高齢者の対人交流について —地域交流デイサービス利用者への調査—
	家族が他出した高齢世帯の生活認識に関する研究
鈴木 孝典	MSW が情報収集を行う「拠り所」についての一考察 —退院支援場面に着目して—
	知的障害児の性行動の問題に対する捉え方の違いに関する研究 —特別支援学校教諭と寄宿舎指導員を対象に—
	精神障害者に対する社会的態度に影響を及ぼす要因について —精神保健福祉援助実習経験者を対象にした質的調査からの考察—
	日常生活自立支援事業を担う専門員が経験する困難さについての研究 —生活支援員との連携に焦点をあてて—
	知的障害者入所施設における家族の問題への支援についての一考察 —重度知的障害者を支援する生活支援員に焦点を当てて—
	身体障害をもつピア・カウンセラーのストレスに関する研究
西梅 幸治	ファミリーソーシャルワークにおける家族再統合への支援方法に関する一考察 —若年層の母親の虐待事例に着目して—
	地域福祉計画策定過程における住民参加の促進方法に関する一考察 —市町村行政の役割に着目して—

編集後記

社会福祉学部報第12号をお届けします。

平成21年度は、平成22年度からの学部拡充（定員増および介護福祉士養成課程の設置等）の準備とそれに伴う施設整備、さらに社会福祉士養成課程新カリキュラムへの対応等、新たな教育体制の整備という課題に取り組んだ一年でした。平成22年度の春を迎え、介護福祉士養成課程に対応した看護福祉棟も完成し、75名の入学生を迎え入れ、新任教員が加わって新しいカリキュラムが始まり、社会福祉学部は新たなステージに入ったことを実感致します。

本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者の皆様方のご支援ご協力のもと、県内外に活躍する社会福祉専門職を養成するという重要な使命を着実に果たしてきたと考えております。さらに、この変化の時期にあたり、従来からの強みであるきめ細やかな少人数制教育の良さを継承しつつ、拡充した教育体制の内実を整えていくという次なる課題に直面しています。そのような認識のもとに、今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思っております。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、また本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員長 長澤 紀美子

高知女子大学社会福祉学部報

第12号

発行日：2010年6月28日

発行者：前山 智（学部長）

編集：長澤 紀美子

新藤 こずえ

編集補助：杉村 薫（学部事務補助）

高知女子大学社会福祉学部

〒781-8515 高知県 高知市 池 2751-1

Tel 088-847-8700（代表）

Fax 088-847-8672（学部専用）